

大

魂



一  
物

已亥春

西洲正隆  
其



## 序

久矣。世無眼識也。著書者與讀書者。多不切于世情。可謂通弊矣。試放眸瞳觀宇內。二十年前之世界。非十年前之世界。十年之前之世界。非今日之世界。讀書學問。既爲時文之世界也。豈可無所用意哉。偶雖解其理者。有及泰西之事情。不及東洋之形勢。或具東洋史眼者。誦秦漢丹冊。不及明清青史。甚則其身居隣牆咫尺之邦土。觀於清國近時。惘然如瞽者。可歎也。西島良爾君著清國一斑。携

來示予。叙彼國狀態。畧盡焉。意在爲啓發人目之  
一裨助。予最欽其用意不迂。夫旋環無極者天地  
之事也。我邦旣挾戰勝之餘烈。以飛揚東洋。對清  
今後之策。固不可忽也。其詳清國之情態。蓋急於  
其知泰西之事情矣。異日之世界變形勢。坤軸更  
一轉。此書益觀其要。一言以辨卷首者。文學博士  
末松謙澄也。

### 序

地貌彪大形勢幾變晨。妖雲ヲ排スレバ夕ニ  
怪雨ヲ見漸ク死活ノ危機ニ瀕スルハ清國ノ  
現狀ニ非ズヤ其禍福ノ我ニ影響シ利害ノ我  
ニ關聯スルヤ更ニ言ヲ俟タズ何人モ其真相  
ヲ知ルニ之レ急ナリ此書ハ著者ガ實歷辛酸  
ノ後奇警ノ觀察ヲ以テ筆ヲ下シ、モノ旣ニ  
シテ瀏覽一過スルニ叙事簡明ニシテ配意周  
到尋常ノ書ト頗ル其撰ヲ異ニス亦方今適切

ノ好著ナリ聊以テ爲序

己亥春日

學堂居士 尾崎行雄

四

序

方今國家ノ急務ト稱スルモノ其目極メテ多シ而シテ其眞ニ最モ急ナル者外交ニ如カズ列國星羅其關係亦極メテ繁シ而シテ其關係ノ最モ重大ニシテ急要ナルモノ清國ノ右ニ出ルモノ非ズ予ハ固ク信ズ我邦今後ノ運命ハ清國ノ治亂ニ由テ定ル故ニ清國ノ問題ヨリ重大急要ナル者ハアラズト試ニ前岸ノ大陸ヲ看ヨ今ヤ歐人如何ニ彼ヲ遇シ如何ニ彼

五

六  
ヲ視ルカ壤地九十萬方里茫漠トシテ無主ノ  
如ク生靈四億萬蠢爾トシテ奴隸ノ如ク殆ン  
ド國ヲ以テ之ヲ遇シ人ヲ以テ之ヲ視セサル  
者ノ如シ露ノ旅順大連獨ノ膠州ハ姑ク置テ  
論セズ蕞爾タル伊國スラ猶ホ吶喝ヲ以テ要  
地ヲ略省セントス況ヤ其餘ノ強國垂涎ノ地  
成竹胸ニ在リ一朝事アラハ雲南貴州果シテ  
誰ノ有ゾ長江一帶ノ沃野果シテ誰ノ有ゾ嗟  
岌々乎其レ危イ哉清國衰弱ト雖モ堂々一大

帝國ナリ而シテ彼レ歐人今ハ亞非利加荒蕪  
ノ野ト同一視シ白晝公然分割ヲ議シテ憚ラ  
ザルニ至ル我が大和民族一片義俠ノ心豈之  
ヲ坐視スルニ忍ヒンヤ況ヤ我邦ノ利害ヲ以  
テ之ヲ論スレハ政事ト商業トヲ問ハス皆密  
接離ルベカラザル關係ヲ有シ一日モ之ヲ等  
閑ニ付スルヲ得ザルニ於テチヤ然ルニ獨異  
シム世ノ海外ノ事ヲ議スルモノ大抵遠ク日  
チ歐米ニ注ギ却テ近ク前岸比隣ノ清國ニ迂

遠ナルヲ今ノ時豈此ノ如クシテ止ムベケン  
ヤ西島君此ノ著蓋シ茲ニ慨スル所アルナリ  
此書一たび世ニ行ハレ世人ヲシテ大ニ醒覺  
セシムルコトアラバ實ニ國家ノ幸ナリ

明治己亥春日病葺中ニ於テ

### 犬養毅識ス

### 序

散士常ニ我カ邦人ノ一葦水ヲ隔ツル清國ノ  
形勢ニ暗ク且ツ踈キノ感ヲ抱クヤ久矣今ヤ  
赤縣神州ハ四分五裂ス將ニ是レ唇亡テ齒寒  
ノ嘆ヲ發スルノ秋ナリ而モ猶ホ清國ノ形勢  
ヲ觀察スルノ冷淡ナル實ニ驚クベシ蓋想フ  
ニ我カ邦人ノ學タルヤ遠ク四書五經ヲ經ト  
シ左傳史記ヲ緯トシ詩文ハ唐宋ヲ師トシ刑  
法ハ明律ヲ範トシ千歲ノ故典ヲ暗記シ徒ニ

死法ニ明通スルモ却テ近世ノ活歴史ニ味ク  
且ツ踈キノミナラス恬乎トシテ之ヲ怪マズ  
故チ以テ古今邦人ノ著書タル多ク輯疏注解  
評論ニ止マリ清國內外ノ形勢ヲ觀ルノ好著  
述ニ乏シ今茲西島氏其著ス所ノ實歷清國一  
斑ノ序文ヲ需ム其記ス所ヲ見ルニ内治外交  
財政兵制法典ヨリ農商工運輸交通金融風俗  
教育宗教地理ニ至ル迄細大論評ス之ヲ讀閱  
スルノ邦人ヲ益スル決シテ尠少ナラザルヲ

信ズ雖然四百餘州ノ大ナル四億萬衆ノ多キ  
數年ノ力能ク之ヲ蒐集論斷スベキニ非ズ況  
ンヤ清國將來ノ變化朝夕ヲ謀ルベカラサル  
モノ有ルニ於テ乎希クハ著者一層ノ心力ヲ  
練リ思慮ヲ費シ切磋琢磨他日ヲ期シテ更ニ  
完全ノ一大著述ヲ公ニシ邦人ヲシテ則ル所  
アラシムルコトヲ著者果シテ散士ノ微言ヲ  
容ル、ヤ否依テ卷首ニ書スルト云爾

己亥三月

東海散士



緒言

一身之屈伸一家之飢飽世俗之榮辱得失貴賤毀譽君子固不暇憂及此也此レ恩師故荒尾東方齋が日夕予輩ヲ訓諭セル警語ナリ恩師清國ニ在ルコト十余年深ク其實勢實情ヲ究メ兩國朝野ノ間大ニ重テナシタルノ人壯圖ヲ畫シテ其抱負ヲ行フニ及ハス朝野ノ愛惜措カサル所ナリ予ノ本書ヲ草スル又實ニ恩師ノ所論ト示諭トヲ經トシ先輩ノ所說ヲ緯トシ之ニ自己ノ見聞ヲ參ヘテ編成シタリ若夫レ所說ノ迂陋ト事實ノ粗笨トハ予が淺識不文ノ致ス所ニシテ其不遜ノ罪ハ予が甘受スル所ナリ

今ヤ東亞ノ風雲漸ク急ニ歐西列強ノ陸梁日一日ト其歩ヲ進ム吾人東方ニ國スルモノ比隣老帝國ノ實相實情ヲ知悉

シ以テ立脚ノ地盤ヲ築成シテ切實ノ建設ヲ企圖シ西力ノ東漸ニ拮抗スルノ素ヲ養フノ上ニ於テ多少裨益スル所アラバ之レ予ガ願足レリ矣予ガ望足レリ矣必ズシモ大方ノ清鑑ヲ汚スモノナランヤ

明治三十一年九月

函南逸人記ス

附記

本書ハ實ニ明治三十一年十月ニ於ル清國政變以前即チ光緒帝ノ銳意勵精治ヲ圖リ民間有爲ノ人才ヲ登用シテ政務ノ顧問トナシ或ハ樞機ニ參與セシメ其第一着トシテ官吏登用法ノ上一大革新ヲ加ヘ固陋ノ舊習ヲ剪除シテ徐ニ收進ノ效果ヲ收メントスルノ當時予ガ遊學中ノ親睹セル事實ヲ蒐テ起稿セシモノニシテ革新派ノ墜守舊黨ノ勢威ト雖眼ヲ大局ノ上ニ注クニ於テ收變以前ノ内勢ヲ見其政變ノ由來スル所ヲ知ル又多少ノ參酌ニ供スルモノアルベキヲ信ズルナリ大方其意ヲ諒セヨ

己亥初春

著者 附記

實 歷 清 國 一 斑 目 次

第一篇 總論

第一章 總說

內政 外交

第二章 政治

政略 國是

第三章 官制

中央政府 地方部 屬部

第四章 財政

歲出入 地租 鹽稅 厘金稅 海關稅  
關稅 阿片稅 雜稅

第五章 兵備

兵制 八旗 綠營 勇兵 海軍

第六章 法律

法制 保甲制度 ..... 八三

規律 登用法

第八章 農業 ..... 九一

農制 農產

第九章 工業 ..... 九六

礦產 製造所

第十章 商業 ..... 一〇三

綜說 棉置國 會館 公所

第二篇 庶制 ..... 一三二

第一章 風俗 ..... 一三三

綜說 飲食 衣服 家屋 婚儀 葬儀

旅店 茶館 烟館 酒樓 劇場 雜足

年暮 年始

第二章 教育 ..... 一四五

學政 小試 鄉試 會試 殿試 武考

第三章 宗教 ..... 一五二

綜說 儒教 佛教 道教 喇嘛教 回

教 基督教

第四章 運輸交通 ..... 一五六

綜說 郵便 電信 漁船 鐵道

第五章 金融 ..... 一七二

銀行 爲替 質舖 貨幣

第六章 地理 ..... 一七八

地勢 氣候 省城 開口

第七章 結論 ..... 一九九

民間志士懷抱ノ意見

實 歷 清 國 一 斑 目 次 畢

實 歷 清 國 一 斑

函 南 西 島 良 爾 著

論 述

第 一 編 總 論  
 第 二 章 內 政  
 第 三 章 外 交  
 版 圖 ノ 大 人 口 衆 之 多 數 舞 セ バ 以 テ 東 亞 ニ 霸 タ ル ニ 足 リ  
 地 上 ノ 利 地 下 ノ 富 之 多 作 興 セ バ 以 テ 歐 米 ニ 凌 駕 ス ル ニ 足  
 ル 清 國 ノ 潛 勢 カ タ ル 蓋 シ 又 大 ナ リ ト 云 フ ヘ シ  
 國 ヲ 建 ツ ル コ ト 五 千 年 地 ヲ 劃 ス ル コ ト 四 十 萬 方 里 民 衆 四  
 億 萬 ヲ 有 ス 思 フ ニ 國 土 廣 大 ナ ル モ ノ ハ 國 民 ノ 規 模 必 ズ 大

ナリ建國久遠ナルモノハ自然ノ淘汰必ズ深シ而モ其文化  
 夙ニ開ク遠ク三千年前已ニ燦爛タル光輝ヲ放テリ若シ爾  
 來駸々トシテ進歩シタランカ歐米ノ文明ヲシテ遙後ニ睨  
 若タラシムルコト易々タリシナリ惜ヒ哉唐虞三代ノ舊制ヲ  
 墨守シ頑迷固陋倨傲自尊大勢ヲ達觀スルノ明ナク廣ク智  
 識ヲ世界ニ求ムルヲ知ラズ徒ニ中華中國ノ虛名ニ誇リ内  
 外旦夕ニ苟安シ上下手ヲ束テテ游宴ヲ事トシ心アルモノ  
 ハ嘆息シテ而モ爲ニ計ラズ耻ナキモノハ利ヲ嗜ミテ而モ  
 私ヲ營ムノミ大厦將ニ傾カントスルモ尙ホ堂ニ在リテ安  
 トナシ積火將ニ燃ントスルモ尙ホ薪ニ賤ネテ樂トナス宜  
 ナリ歐西列強ノ陸梁跋扈ヲ招キ而モ其西力ノ東漸ハ次第  
 ニ勢威ヲ加ヘ今ヤ來テ其周圍ニ迫壓シツ、アルコト清國

タルモノ遂ニ能ク土耳其帝國タルヲ免レ得ンカ吾人竊ニ  
 寒心ニ堪ヘザルモノアルナリ  
 抑モ方今ノ世界ハ優勝劣敗適者生存ノ活劇場ニシテ滔々  
 タル寰宇ノ大勢滂々乎トシテ其底止スル所ヲ知ラザルナ  
 リ歐洲列國ノ如キ權勢ノ平衡上僅ニ平和ヲ繋ギ得ルノミ  
 而モ其國人口ノ繁殖ト富源ノ欠乏トハ人民生靈ヲ得ルノ  
 途ニ於テ彌ヨ窮迫ニ陥ルモノアリテ侵略的殖民ノ必要ヲ  
 感ズ此ニ於テカ他ノ未開小弱國ノ邦域ヲ求メテ好言之ニ  
 餌シ干戈之ヲ脅シ遂ニ大ニ拓殖スルノ方略ヲ策シ歐西列  
 強競争ノ銳鋒ハ天寵地福之ヲ取テ窮リナキ支那無限ノ大  
 陸ニ向テ其必勝ヲ争フ所以ナリ  
 日清戰役ニヨリテ尤大ナル老清帝國ノ實勢實狀ハ世界萬

邦ニ暴露セラレタリ歐洲列強ハ其注意ヲ極東ニ向テ急射シ、清政府ノ老衰羸弱復タ他ノ外壓ニ抵抗スルノ力ナキコトヲ看破シ遂ニ其支那割地說ハ愈々歩武ヲ進メ而モ兵力以外ニ無限ノ富庫ヲ分割スルノ指策ハ早ク已ニ露英佛獨ノ間ニ決定セラレ、ニ至レリ露國ノ大聯灣旅順ノ占領東清鐵道ノ敷設特權滿州鑛産ノ開掘ニ於ル英ノ舟山島威海ニ於ル獨乙ノ膠州灣ニ於ル佛國ノ南岱ノ占領雲南蒙自鐵道廣西貴州雲南ノ鑛産ニ於ル好言ニ脅迫ニ扮色假面或ハ恩德ヲシキ態度ヲ清廷ニ示シタル後ニ於テ永久的利益ヲ占取セントス而シテ滿清政府ノ尤モ弱點トスル所ハ其財政ノ窮迫ヨリ大ナルモノナシ其債權者タル歐洲列強ハ皆禍心ヲ包藏シテ一朝其機會ノ乘ズベキモノアルノ日ヲ飛

耳張目シテ窺覷シツ、アルナリ蓋シ歐米人ノ清國ニ垂涎セル其由來ヤ深ク且ツ遠シ其今日ノ形勢ヲ見ルニ至リシモノ抑モ亦故ナキニアラザルナリ先ニ傳道師入り公使領事入り海陸軍士官入り商買入り學者技術者入り或ハ内部樞要ノ政務ニ顧問トナリ或ハ地方權臣ノ帷幕ニ座シ或ハ海關ノ重權ヲ占メ或ハ陸海ニ師タルアリ其他布教ノ目的ヲ以テ四百餘州ニ蟠居セルモノ實ニ三千餘ノ多キニ及ヒ強以テ弱ニ臨ミ智以テ愚ニ臨ミ文以テ野ニ臨ミ名利ノ存スル所ハ干戈以テ之ヲ護シ上下同心拮据經營スルモノ數十年利弊ノ存スル所ヲ詳ニスル又宜ナリト云フベシ

清國ガ近古以來外邦ト戰ヲ交ヘタルハ實ニ四回トス第一

回ハ千八百四十年ニ於ル有名ナル鴉片戦争ニシテ第二回  
ハ千八百六十年ノ英佛同盟軍ト戦ヒ第三回ハ千八百八十  
四年佛國トノ交戦ニシテ第四回ハ乃チ明治二十七八年ニ  
於ル日清ノ交戦ナリ而シテ幾失敗ヲ重ネ困厄ヲ經ルニ從  
ヒ漸ク振新ノ慮ヲ發シ國防ニ兵備ニ多少内放ノ刷新ヲ企  
圖セシト雖根底已ニ頽破シテ外皮ヲ存スルノミ纔ニ支柱  
ノ力ニヨリテ倒仆ヲ支フルガ如シ疾風地ヲ捲テ來ルノ日  
豫測スベカラザルナリ之ヲ要スルニ對清策トシテ歐羅巴  
列國ノ方針ハ其利害相一致セザルノ上ヨリ打算セバ大別  
シテ二トナルベシ

一、近四十年來支那沿岸及其陸地疆邊ニ於テ從來屢々  
行ハレタル所ノ寸攘尺竊的侵奪ハ更ニ其歩ヲ進メテ

遂ニ分割ノ議トナリ互ニ地域ノ讓奪配當ヲ目的トス  
ルコト

二、政略ノミナラズ商略ノ上ヨリシテモ飽ク迄其分割  
ニ反對シ專ラ啓發誘掖ノ任ニ當リ一大革新ノ實ヲ舉  
ゲシメ支那帝國ヲシテ完全ナル獨立ノ体面ヲ保タシ  
ムルコト

清國ノ今日ハ畢竟前二者ノ其一ニ居ラザルベカラザルノ  
命運ニ陷レリ然リト雖支那國民ハ決シテナスナキノ國民  
ニアラザルナリ管子ニ曰「民ヲ慎ムハ賢ヲ舉グルニアリ富  
ヲ慎ムハ地ヲ務ムルニアリト」之ヲ養フニ實學ヲ以テシ之  
ヲ鍊ルニ實務ヲ以テシ之ヲ行フニ實心ヲ以テセバ蓋シ又  
其死ヲ回シテ生トナスノ術ナカラズヤ若シ夫レ印度ノ不

振ハ其人種ノ先天的既ニ劣レルヲ以テナリ土耳其古ノ不振  
ハ其宗教ニ拘泥スルヲ以テナリ清國民豈之ト同一ニ語ル  
ヲ得ンヤ

顧テ其底既ニ腐蝕セル清廷ヲ今日迄其支柱トナリテ保護  
扶持スル所ノモノヲ案スルニ實ニ其國固有ノ富ニアリ而  
シテ中央政府及地方共財政上ニ關シテハ敢テ裕厚ナリト  
信スルヲ得ズ其下民ヲ通觀スルニ下等人民多數ヲ占ムル  
ガ如ク南部地方ハ豐饒ノ地ト稱スト雖廣東福建浙滬等僻  
陬ノ小民ニ至リテハ生計ノ度一ヶ月一兩内外ニシテ其一  
ヶ月ノ備役料亦同シク一兩ニ過ギズ而シテ北部地方ハ荒  
蕪ノ原野多ク貧窶ノ狀知ルベキナリ然ラバ所謂富ナルモ  
ノ那邊ニ存スルヤト問ハバ實ニ人民ノ一部タル郷紳ニ在

リト云ハザルヲ得ズ郷紳トハ名望ト財産トヲ共有セル地  
方ノ有力者ナリトス其名望ハ其身貴顯ノ地位ニ在ルカ或  
ハ父祖ノ學術德行ヲ以テ一世ヲ風靡スルカ或ハ父祖ノ高  
位高官ニ列スルモノアリタル等ヨリシテ郷黨ノ推ス所ト  
ナリ又其財産ハ良田膏地數千頃ヲ有シ畝多ノ小民ヲ養ヒ  
或ハ商業ヲ營ミ質屋銀行等ノ業ヲナシ華々財産ノ擴張増  
殖ヲ圖リテ富有ニ生活ヲナスモノナリ  
此等郷紳ハ其名望財産ヲ恃ミ郷里ニ雄據シ地方官ニ抵抗  
シ其子弟法ヲ犯スモ有司斟酌スル所アリ又其依囑ヲ受ク  
ルコトアレバ稍ヤ事理ニ違反スルモノアルモ情實ノ爲メ  
採聽セサルベカラザル等ノ弊害アリト雖一朝地方ニ異常  
ノ變生ズルニ際シテハ或ハ橋梁ヲ架シ城垣ヲ修築シ砲壘



ヲ築キ兵費ヲ助ク同族子弟ヲ團練シテ官兵ノ不足ヲ補ヒ  
 或ハ贖金ノ調達ヲナス等實ニ隱然トシテ政府ノ藩屏トナ  
 リタルナリ雖然中央政府ノ澁滯地方政治ノ積弊トハ士民  
 ナシテ漸クニ倦厭ノ心ヲ起サシメ加フルニ内部ニ於ル不  
 平黨ニシテ滿州政府ニ反對スルノ匪徒日ニ其數ヲ増シ哥  
 老會一派ノミニテモ五十萬ノ上ニ出テ白蓮會ノ山東直隸  
 ニ盤据スルアリ馬賊ノ滿州蒙古ニ横行スルアリ天地會ノ  
 廣東福建ニ隙ヲ伺フアリテ其會派亦五六ニ止マラズ黨與  
 殆ト全國ニ普ク皆結ブニ宗教ヲ以テシ滿清政府ヲ倒スヲ  
 以テ終極ノ目的トナス就中尤モ陰險チルハ哥老會ニシテ  
 此會第一着ノ手段トスル所ハ清政府ト海外各國トノ間ニ  
 交渉事件ヲ惹起サシメ困難ナル要求ヲ政府ニ申込シメ其

虛ニ乘シテ蜂起スルノ策ヲ取ルモノ、如シ近年連リニ各  
 地ニ騷擾ヲナシ教會堂ヲ燒毀シ宣教師ヲ暗殺シ種々ノ流  
 言ヲ放チテ一般人民ヲシテ外國人ヲ嫌忌スルノ念ヲ起サ  
 シメ政府ニ向テ其怒リヲ移サシムルノ機會ヲ待ツモノ、  
 如シ宛モ本邦維新前ニ於ル攘夷論者ガ天下ノ人心ヲ激怒  
 セシメ傍ラ外人ニ損害ヲ被ラシメ以テ德川幕府ニ向テ外  
 國ヨリ非常ニ困難ナル要求ヲ提出セシメ其應ズルヲ待テ  
 怒ヲ幕府ニ移シテ討幕ノ軍ヲ起シ以テ革命ヲ行ヒタルト  
 同一ノ徹ヲ踏ムモノ、如シ而シテ商工農民ハ勿論官吏書  
 生ヨリ將士兵丁ニ至ル迄亦此黨派ニ加ハルモノ少ナカラ  
 ズ禍根ノ一朝ニ拔クベカラザルヲ以テ故兩江總督曾國荃  
 ノ如キ八年々匪黨ノ頭目ニ數萬金ヲ贈リテ僅ニ之ヲ鎮靜

スルノ策ヲ取リタリト云フ其運動ノ詭秘ニシテ黨外者ノ  
容易ニ伺ヒ知ルコト能ハザルナリ

賈誼言ヘルコトアリ今ノ時ハ人ノ薪ヲ抱テ火ニ入ルカ如  
シト清國ノ現狀大ニ之ニ類スルモノアリ彼ノ髮逆ノ擾亂  
以來攻城野戰ノ武勳アル老將軍モ垂紳正笏廟堂ノ上ニ立  
チテ大政ヲ翼賛シタルノ元老モ今日ニ至リテハ大半鬼籍  
ニ上リ且ツ近來迄封域ノ名臣トシテ朝野ノ間ニ重キヲナ  
シタルトコロノ左宗棠曾國荃ノ諸功臣モ遠ク人生ヲ辭シ  
威望以テ天下ノ尊敬深カリシトコロノ醇親王モ遷坐セラ  
レ劉銘傳劉錦棠ノ宿將モ世事心ト違ヒ封圻ノ重寄ヲ擲チ  
テ冠ヲ懸クテ故山ニ歸耕シ季鴻章亦タ勢威前日ニ及ハズ  
僅ニ員ニ備ハルノ悲境ニ沈淪シ只其現職ニ在リテ重責ヲ

負フモノハ張之洞劉坤一等數人ニ過キス此等ノ諸士モ齡  
多クハ古稀耳順ノ間ニ在リテ能ク殘喘ヲ人世ニ保ツモノ  
數年ニ過ギザルベシ若シ此等ノ諸士相次テ世ヲ去ルニ至  
レバ他ハ俗和登用ノ法ニヨリテ僥倖ニモ仕官ノ途ヲ得タ  
ル腐儒ノミニシテ如何シテカ此大國ヲ維持スルコトヲ得  
ベキ加フルニ外交ハ日ニ其繁ヲ極メ外人ノ跋扈陸梁ハ日  
一日ト其歩ヲ進ム滿清政府姑息ノ政策豈能ク久シキヲ保  
ツヲ得シヤ

予輩ハ信ズ到底一大革命ヲ經ルニアラザレバ清國ハ更新  
復活スルコトヲ得ザルヲ早晚政事の革新ハ免ル、能ハザ  
ルノ理教ナリ大厦ノ傾倒ハ一木ノ支ニアラズ帝王ノ業ハ  
一士ノ畧ニアラズ况ンヤ老清帝國ノ衰頽紀綱ノ紊亂岌々

乎トシテ累卵ノ危キモノアルヲ見ル之ガ救劑ノ策タル一  
二ニシテ止マラズト雖要ハ人才ノ養成作興ニ在リ  
用フル所ハ其養フ所ニアラズシテ而モ其養フトコロハ其  
用フル所ニアラズ人才ナルモノ豫メ之ヲ培養セズシテ而  
モ一朝臨時ニ之ヲ招致セントスルモ安ソ得ベクンヤ今ヤ  
我國家其創大ナリ其痛ミ深シ善ク國ヲ謀ルモノハ戰勝ノ  
爲メニ其志ヲ滿サズ戰敗ノ爲ニ其氣ヲ沮セズ艱難困苦ノ  
時ハ即チ激勵奮興スルノ日ナリ究スレバ變ヲ變ズレバ通  
ズ宜シク前ニ懲リ後ニ慎ミ一切拘泥ノ舊習ヲ破リ以テ士  
氣ヲ振作シ實効ヲ將來ニ收ムルヲ必要トス國ノ強弱ハ人  
才ノ輩出如何ニアリ人才乏シケレバ幸ニシテ戰ニ勝ツモ  
根本ニ益ナキナリ今日仕途日ニ紊レテ民生益々困シミ人

ムベキモノナキハ之レ其培養ノ道ヲ失フニヨルトハ日清  
戰役後時勢ノ必用ニ鑑ミ巡撫陶模ノ人才培养ニ就テ上表  
セル所ノ要旨ナリ  
雖然在廷ノ大臣百司醉夢昏々トシテ國家ノ危難ヲ對岸ノ  
火災ニ付シ未ダ曾テ嘉謀ヲ献ズルモノナク偶々變法ノ急  
務ヲ説クモノアレバ處士橫議ノ端ヲ啓キ國憲ヲ紊亂スル  
者トナシテ追究辨理スルニ至ル時勢豈空シク老シヤ此ヨ  
リシテ識者ノ間善後ノ策ヲ講シ自強ノ道ヲ策スルモノ所  
在ニ驚々トシテ起ルニ至リ建白上書トナリ新紙ノ發刊ト  
ナリ學會ノ設立トナリ就中尤モ世ノ耳目ヲ聳動セシメタ  
ルモノハ舉人千餘名ノ連署ニ成レル公車上書記トス其革  
新ノ尤モ急須トシテ彼等ノ唱道スル所ハ所謂人才ノ登用

ニシテ乃チ官吏登用法ノ改正ハ殆ド輿論トナリタルナリ』  
 『世界列國競智ノ時ニ當リテ自ラ其士人ヲ愚ニシ其民ヲ愚  
 ニシ其王公ヲ愚ニシ以テ外邦ノ智敵ト戰フ敗亡ニ陥ルヤ  
 言ヲ待タザルナリ』此一語大ニ滿廷ヲ動カシ且ツハ時勢ノ  
 必用ニ驅ラレ外邦ノ忠告ニ促サレ遂ニ頃日ニ至リテ八股  
 試帖廢止ノ上諭ハ頒布セララル、ニ至レリ清帝ノ此英斷ハ  
 人才登用ノ上ニ於テ多少望ヲ囑スルニ足ルモノナルベキ  
 モ果シテ能ク其年來ノ積弊ニ打チ勝チ革新ノ上ニ一着ヲ  
 進メ得ルヤハ目下ノ疑問トスルトコロナリ  
 顧テ我日本帝國ノ對清策トシテ此間ニ處スルノ方法ハ如  
 何今日我國ガ實際歐洲列國ト對抗シテ清國ト同盟シ若ク  
 ハ之ヲ援助扶持スルノ實力アリヤ否ヲ考量セザルベカラ

ズ夫レ同盟若クハ援助ヲ與フルノ事ハ速急ニ之ヲ斷ズベ  
 カラザルモ而モ袖手傍觀漫然トシテナス所ナキハ決シテ  
 我國ノ利ニアラザルナリ隣邦ノ衰弱禍亂ハ延テ我國ノ禍  
 難タルヲ知ラザルベカラズ清國ノ歐羅巴列強ノ俎肉トナ  
 ルハ吾人東方ニ國スルモノ、奮慨ニ堪ヘザル所ナリ况ン  
 ヤ唇齒輔車ノ關係ヲ要スルヲヤ  
 絶大ノ偉業ヲ企圖スル必ラズヤ非常ノ艱難ヲ冒スノ覺悟  
 ナカルベカラズ曠世ノ偉謀ヲ成就スル非常ノ勞劬ニ忍ブ  
 ノ覺悟ナカルベカラズ全ク内外ノ形勢ニ見深ク古今ノ成  
 敗ニ察スルニ天ノ我國ニ命ゼラル、所以ノモノ決シテ偶  
 然ニアラザルヲ知ルナリ吾人ハ須ラク立脚ノ地盤ヲ築成  
 シテ切實ノ建設ヲナシ以テ隣邦ノ禍亂ヲ制服スルノ實力

一八

ヲ養ヒ兼テ之ヲ扶植助長セシメ以テ清國ノ禍亂ヲシテ我  
 日本ノ禍亂ヲ誘致セザラシムコトヲ期セザルベカラズ此間  
 若シ一步ヲ誤ラシカ亞細亞ハ亞細亞ノ亞細亞ニアラズシ  
 テ遂ニ歐羅巴ノ亞細亞ト化シ了ラントス  
 蓋シ清國ハ我海陸產物ノ最大主顧タルノ地ニシテ此國ノ  
 盛衰消長ハ只ニ政略ノ上ノミナラズ直ニ以テ實業上ノ權  
 利利益ノ消長ニ關スルコト大ナレバ此激甚ナル風雲ノ間  
 ニ處スル當局タルモノ須ク機ニ應シテ通商上ノ利權ヲ我  
 ニ收ムルハ今日ノ場合急且ツ要ナルモノアリ殊ニ清國內  
 地ニ於ル我國ノ利害ヲシテ痛切ナル關係ヲ有スルニ至ラ  
 シムル上ニ於テ將タ又之ヲ歴史ニ考ヘ之ヲ現狀ニ照スモ  
 日清貿易ノ如キハ大ニ之ヲ振興セシメザルベカラズ

二十有餘ノ開港場ニ櫛比セル所ノ大厦高樓其港口ニ輻輳  
 セル所ノ汽船風舶悉ク此レ歐米各國ヨリ萬里ノ波濤ヲ破  
 テ來航セルモノニアラザルハナシ然リ而シテ我日本ノ如  
 キ長崎ヨリセバ僅々五十餘時ニシテ達シ得ベキ隣接ノ地  
 ナルモ我商人ノ進テ通商ニ從事スルモノ寥々晨星ノ如ク  
 戰役ノ結果開市ノ場トナリタル蘇抗沙市ノ如キ僅ニ領事  
 署ノ設立ヲ見タルノミニシテ未ダ通商ヲ開始セルモノヲ  
 聞カザルハ吾人ノ慨嘆ニ堪ヘザル所ナリ  
 我國ノ清國ニ於ルヤ之ヲ歐米ニ比スルニ啻ニ其距離ノ甚  
 ダ近キノミナラズ其人種宗教制度風習慣例等彼ハ霄壤ノ  
 差異アリテ我ハ頗ル相伯仲セリ此ヲ以テ天然ノ幫便ヲ利  
 シ人事ノ經營ヲ盡サバ其勞少クシテ其功ハ之ニ倍センナ

リ予明治二十三年九月ヲ以テ清國ニ遊ビ爾來禹域ノ花月  
ヲ賦スルモノ四星霜日清交戦ニ及ビテ歸朝シ平和條約締  
結ノ後再ビ上海ニ航シ居ルコト一歲親ク在留本邦人ノ現  
狀ヲ視察シ大ニ感ズル所アリ今其本邦人中最も多數ノ在  
留者ヲ有スル上海港ノ現況ヲ記シ以テ諸君ノ一餐ニ供セ  
ントス

上海港ハ道光二十二年即チ我天保十三年阿片戦争ノ結果  
ニヨリ通商埠頭トナリタルノ地ニシテ一年ノ貿易額ノ如  
キ一億六千五百餘兩ノ巨額ニ達ス又盛ナリト云フベシ而  
シテ彼等外人ガ各租界ヲ設ケ上下同心陸梁ヲ逞フスルニ  
至ルモノ其因縁タルヤ決シテ偶然ニアラザルナリ彼等ノ  
人跡ハ内地ニ縱横シ能ク其風俗人情言語ニ通曉シ許多ノ

資金ヲ有シ永住ノ目的ヲ以テ利ヲ永遠ニ期シ以テ拮据經  
營スルモノ茲ニ數十年醜テ居留ノ我日本人ヲ見ルニ外人  
ニ拮抗スルノ勇氣ナク外人ヲ凌駕スルノ實力ヲ有セズ興  
敗常ナク盛衰朝夕ヲ計ラズ爲ニ貿易上ノ最大要素タル信  
用ノ一點ニ至テハ全ク地ニ落ツルニ至ル之レ元ヨリ資力  
ノ微薄ナルト營業ノ方法宜シキヲ得ザルトニヨルト雖モ  
亦本邦商勢ノ微弱ニシテ其振ハザルヲ證スルト同時ニ個  
人間結合力ノ乏シキヲ表明スル所タラズンバアラズ故ヲ  
以テ外人ハ益々我ヲ輕侮シ清人ハ商業上常ニ我ヲ掌上ニ  
弄シ領事ハ其意見ヲ揮フコト能ハズ商賈ハ其利權ヲ擴張  
スルコト能ハズ徒ラニ彼等ノ高樓巍峩タルヲ見衣食車馬  
ノ壯觀ナルヲ見テ空ク羨望スルノミ宛モ槽檻ノ間ニ驅使

セラル、疲馬ノ感ナキニアラス常ニ命ヲ外商ニ受クルノ不幸ニ遭フ之ヲ要スルニ本邦人ノ愛國ノ元氣ヲ鼓舞作興スル所以ノ道ヲ講セスシテ徒ニ目前ノ小利ニ汲々シ共同ノ利益ヲ計リテ外人ニ拮抗スルノ策ヲナサズ悠々自棄シテ敢テ進マザルモノ果シテ何ノ心ゾヤ予輩ノ聞ク所ニヨレバ居留本邦人中婦人ノ數殆ト三分ノ二ヲ占ムト而シテ彼等ハ皆身ヲ外人又ハ清人ニ托スルモノナリ彼等ハ敢テ之ヲ醜業視セザルノミナラズ却テ揚々トシテ他ニ誇示スルナリ蓋シ此種ノ婦人ハ元ト山間ノ僻邑ニ生育シ目ニ一丁字ナキノ徒ニシテ廉耻ノ何物タルヲ解セザルノ愚物ナレバ遂ニ極メテ此可憐ナル境遇ニ陥リタルモノナリ予輩ハ又聞クコトアリ彼等外人ハ日本婦人ノ醜業ヲナセル此

ノ如キヲ見之ヲ以テ他ノ日本人全体ニ推及シ偶々良家ノ貴嬢夫人等ノ公園ニ散策スルヲ見レバ或ハ銀塊ヲ示シ或ハ卑猥ノ言語ヲ以テ嘲弄スルモノアリト無禮千萬ノ極ナラズヤ然リト雖西人社會ニ於テ決シテ醜業ヲ取ルモノナシトセズ佛租界頭ホテルノ看板ヲ掲ケ酒店ノ招牌ヲ垂レタルモノ或ハ蘇水橋畔ノ層樓高閣何レモ彼等西人ノ心魂ヲ蕩盡セシムルノ具タラザルナシ彼等ノ醜体ハ寧ロ我ヨリ甚シキモノアリ然レトモ彼等ノ醜体ノ他ノ強盛ナル働カノタメニ只外ニ暴露セザルノミ  
以上ハ上海港ニ於ケル本邦人ノ現狀一斑ニ其無勢力ナル戰勝國トシテ東方ノ先進國トシテ徒ニ内ニアリテ誇稱スルモ一步足ヲ海外ニ踏ミ入ルレハ即チ以上ノ悲境ニ沈淪

セサルヲ得ズ我日本國民タルモノ奮勵一番ヲ要スベキナ  
 リ  
 蓋シ其實力ヲ發揮スル今ノ時ヨリヨキハナシ即チ極東ニ  
 向テ急射セル歐西列強ノ銳鋒ニ拮抗シ此問題ニ向テ快刀  
 ヲ下シ以テ東洋先進國タルノ實力ヲ示サマル可ラズ思フ  
 ニ戰役後ニ至リテハ清國民ハ能ク我實力ヲ認知シ其文明  
 ノ進歩ヲ認知スルニ至リ却テ我ニ依頼スルノ感念ヲ生セ  
 リ加フルニ歐西列強ノ強求ハ益々清國民ヲ驅リテ我ニ向  
 ハシムルニ至レリ我ノ清國民ヲ啓發誘導スルノ機ヤ到レ  
 リト云フベキナリ  
 抑モ戰ハ國交ノ和ヲ失フニヨリテ宣セラレ和ハ宣戰ノ目  
 的ヲ達スルニヨリテ媾ゼラル我國ガ清國ニ對シテ戰ヲ宣

スルヤ其主眼トスルトコロハ朝鮮ノ獨立ヲ鞏固ニシ東洋  
 ノ平和ヲ永遠ニ保持スルニアリ苟モ此目的ニシテ完カラ  
 ノカ即チ皇師戰捷ノ効果ハ間然スルトコロナリ  
 我國民ハ廉潔ニシテ尙武ノ民ナリ淡泊ニシテ邪氣ナキノ  
 民ナリ故ニ事ニ當リテ進ムヤ銳物ヲ見テ取捨スルヤ狐疑  
 セズ此性質ヤ即チ萬彙ノ櫻トナリ百鍊ノ鐵トナル此心以  
 テ隣邦ノ禍難ヲ制服スルノ素ヲ養フニ足ランナリ  
 其操ルベキモノハ則チ之ヲ操リ縱ツベキモノハ則チ之ヲ  
 縱ツ所謂操縱與奪ノ敏活ナルコソ外交政策ノ要旨ナリト  
 蓋シ然ルモノアルベシト雖東方關係上滿清帝國ノ境土ニ  
 シテ之ヲ分割スルニ易ク之ヲ扶植スルニ難シトスルモ吾  
 人ハ其難ヲ忍ビテ誠心誠意之ニ交リ以テ啓沃開發セザル



ベカラス宜ク上下齋心天然ノ關係ヲ利用シ人事ノ經營ヲ  
悉クシ以テ西方ノ東漸ヲ防遏セザルベカラズ此レ今日ノ  
急務ナレバナリ雖然若シ夫レ電光石火忽ニシテ坤裂ケ忽  
ニシテ乾飛ヒ雲霧晦矇鬼神モ其機ヲ端倪スベカラザルノ  
事變ニシテ發生スルニ至ランカ之レ吾人カ今日ニシテ豫  
メ之ヲ云フノ時ニアラザルナリ矣

第二章 政治

政 略 國 是

抑モ清朝ハ關外ノ蠻族ト稱セラレタル愛親覺羅氏ガ一躍  
シテ明朝ニ代リ支那全部ヲ統一セシモノナレバ當初漢人  
ハ滿人ヲ以テ全ク外國人視シ且ツ夷狄視シタルナリ若シ  
我日本ガ支那ヲ略取シ統一セシト假定センニ漢人ノ我ニ

對スル感情ハ滿人ニ於ルノ當時ト毫モ差異ナカリシナラ  
ノ果シテ然ラバ外國人視セラレ夷狄視セラレタル滿人ガ  
一朝廟堂ノ上ニ坐スルニ於テハ自己ノ地位ヲシテ鞏固ナ  
ラシムル爲メ權略上是非共滿人ノ勢力ヲシテ常ニ漢人ノ  
上ニ居ラシメザルベカラズ茲ニ於テカ滿漢鉗制ノ法アリ』  
元來支那人ハ固陋傲慢ノ性質ヲ有シ百般悉ク舊慣ヲ貴ヒ  
殊ニ祖宗ノ遺法ハ務メテ之ヲ遵奉シ偶々新法ヲ敷キ新制  
ヲ云フモノアレバ直ニ異端トシテ排斥シ頑然取テ之ニ向  
フモノナク論議百出スルニ至ル覺羅氏ノ蠻族ヨリ起テ中  
原ノ地ニ君臨スルヤ勉メテ此等ノ慣習ニ意ヲ用ヒ歷史上  
ノ感觸ヲ利用シテ政治ノ方針トナシタリ然レトモ其極ヤ  
籠絡トナリ壓制トナリ猜疑ト變シ千緒萬端種々ノ現象ヲ

呈出スルニ至ル假令バ官吏ヲ配置スル如キ滿漢ヲ并用シ  
外見上頗ル公平ナルガ如クナレドモ内部樞要ノ地ニ至テ  
ハ必ズ滿人ヲ以テ補充シ漢人ハ常ニ滿人ノ制スル所トナ  
ル又其旗下タル八旗兵ヲ配テ各省ノ要地ニ駐屯セシメ以  
テ漢人ノ反亂不虞ニ備ヘ且ツ此旗下ノ兵員ニハ給與ヲ裕  
ニシ專ラ武事ヲ練習セシムト雖地方總督巡撫ノ配下ニ屬  
スル應募兵ニ至リテハ各州縣ニ分駐セシメ傍ラ商業ヲ營  
ムコトヲ許シ給與ヲ薄フシ自ラ武事ニ遠カラシムルノ政  
策ヲ取り何處迄モ八旗兵ノ勢力ヲシテ重カラシメントン  
ス之レ滿州政府ノ特設ニ係ル鎮臺兵ノ漢人ヲ制スルモノ  
トス  
凡ソ一國ヲ統一スル必ズ一定ノ政略ナカルベカラズ而シ

テ此政略タル其時勢ニ適應スルノ度ニ比シテ失敗ニモ又  
遲速アルナリ支那ハ建國尤モ古クシテ禮樂刑政夙ニ燦爛  
タルモノアリキ而モ中世以來治亂興敗相踵キ明末ニ至リ  
テハ紀綱ノ頽廢云フベカザラルアルニ至レリ清朝ノ一統  
ニ及ビテハ深ク前朝ノ衰頽滅絶ノ原因ヲ考究シ其弊害ノ  
由テ來ル所ニ注意シ以テ施政ノ大綱ヲ定メタリ而シテ累  
代ノ失敗ハ多ク權勢ノ不平均ヨリ原由スル者ナルニ鑑ミ  
勉メテ此權勢ノ點ニ意ヲ盡シタリ然ルニ其權勢ノ平衡ヲ  
保タンガタメヨリシテ一人ニシテ爲シ得ル事ヲモ數人ヲ  
シテ分擔セシメ各省大臣次官ノ定員ヲ各二人宛ト規定ス  
ル等徒ニ事務ノ緩漫滯滯ヲ來シ冗費ノ幾許ナルヲ知ラズ  
其慾望ヲ防カント欲シテ却テ非常ノ弊害ニ陷ルモノトス

蓋シ支那ハ德教政治ノ國ニシテ法制政治ノ國ニアラズ天命一タヒ改マレハ人心亦改マル法ノ新舊ハ其間フ所ニアラズ明朝ハ天下ヲ以テ家トナシ清廷ハ政治ヲ以テ職トナス其法同ヲト雖其意異ナルモノアルナリ所謂滿清政府施政ノ方針ナルモノ五アリ

- 一、 政權ノ臣下ニ移ルヲ防グニ在リ
- 二、 滿州人ヲ以テ漢人ト對抗セシメテ以テ漢人ノ勢力偏重ヲ防グニアリ
- 三、 文官ノ權力ヲ大ニシ武官ノ勢威ヲ壓抑シ文武互ニ相制肘セシムルニアリ
- 四、 文武科擧ノ法ヲ設ケ少壯有爲ノ材幹ヲシテ虛名ノ場ニ走ラシメ進取ノ氣力ヲ銷磨セシメテ以テ社會ノ

秩序ヲ保タントスルニアリ

- 五、 武官僚ノ在職年限ヲ一定シ新陳代謝ヲ行ヒ以テ官職ヲシテ一人ニ私セザルヲ示シ衆庶ノ不平ヲ防クニアリ

一世ノ英傑タル太宗ノ企畫セル以上ノ政策ハ着々能ク其効ヲ奏シ當時ニ在リテハ金科玉條トモ頼ミタリシモノモ惜ヒ哉時勢ノ遷移ニ驅ラレ三百年ノ末世ニ至リテハ遂ニ全ク害毒ト化シ去リ自己ノ劔ヲ以テ自刃セルノ悲境ニ沈淪セルニ至レルモノト云フベキナリ

元勳曾國藩銳意財政ヲ整理シ兵權ヲ統一センコトヲ期シ而モ其慘憺タル經營ヨリシテ根本的大革新ヲ決行セントセシモ老朽已ニ久シク腐蝕已ニ極リ復々如何トモナスコ

ト能ハズ其病ヲ尋ニアルヤ刻時モ皇室ヲ忘レズ病革ルニ及ビテ勅使親ク病尋ヲ慰問シ國家百年ノ長計ヲ問フ公病ヲ勤メテ前途ノ方策ヲ献ズ曰ク「國都ヲ中樞ノ地ニ移スベシ。尙武ノ風ヲ盛ニスベシ。兵馬ノ實權ヲ中央政府ニ綜攬スベシ。財政ヲ整理スベシ。官吏登用法ヲ改正スベシ」曰ク「今ヤ我中國内亂漸ク平定スト雖腥風未ダ全ク収マラズ外交ハ日ヲ追テ頻繁ニ赴キ而シテ内政未ダ整ハザルモノアリ實ニ邦家危急存亡ノ秋ナリ然リト雖内治上ニ關シテハ臣己ニ適任ノ士ヲ選拔シテ各其要路ニ置キタリ陛下宜ク此輩ト商量シテ以テ内治ヲ計ラハ庶幾クハ錯ナキヲ得ンカ獨リ外交ニ關シテハ國防未ダ全カラズ軍實未ダ修マラズ兵餉未ダ足ラザルモノアリ須ク全力ヲ注ギテ以テ之ニ當ル

ノ策ヲ講ズベシ他日歐米列強ノ陸梁跋扈ヲ受ケンカ之レ實ニ祖宗三百年ノ天下ヲ汚スモノナリ臣ガ憂ヒテ眠ル能ハザル所ノモノハ只外交ノ一點ニ在リト言終テ瞑ス之レ則チ今日迄清廷ノ國是トスル所ニシテ内政ノ紊亂腐敗セラルニ關ハラズ兎ニ角國防ニ兵備ニ比較的外部ノ美且ツ活潑ナリシ所以ナリトス清國民ノ怯懦無氣力ナルハ日清戰爭ニ因テ證據立ラレタリ所謂利慾ノ外愛國心ナキナリ剛毅ノ美德ハ消磨シタルナリ頑固ナリ偏信ナリ國民ノ性格ヲ備ヘザルモノトシテ社會ノ嗤笑ヲ招キタルナリ然リ豈夫レ然ランヤ而モ一片強硬執拗ノ性情ハ毫モ衰ヘザルナリ自信自重卓然不羈祖宗ノ風尙ヲ墨守シ尙モセザルニ至テハ一點愛スヘキ將タ頼ムベキ性格ノ存スルモノナカラ

ズヤ

顧テ我國今日ノ情態ヲ見レハ輕佻浮薄唯新之ノ競ヒ道義  
沈淪シテ廉耻地ヲ掃ヒ人情紙ノ如ク空論囂々トシテ徒ラ  
ニ山河鬼神ヲ泣カシム却テ清人ノ偏信ニ耻ツルナカラ  
カ

於歐清國民ヤ世人ノ所謂無氣力ナルモノニアラズ訓養統  
帥其宜シキヲ得ハ以テ白刃蹈マシムヘキナリ以テ水火ニ  
入ラシムヘキナリ惜ヒ哉廟議其政策ヲ誤リ一時ノ糊塗ヲ  
事トシ百年ノ長計ヲ知ラズ滔々タルモノヲ驅テ今日ノ境  
遇ニ陥ラシメントハ  
志士康祖詒等上書ノ一節ニ曰ヘルアリ國家ハ猶器ノ如シ  
其新テ用テ其陳ヲ棄ツレハ弊乃チ存セズ水滯積スレバ於

總

論

トナル流ルレハ則チ腐セズ戸閉ツレバ壞ル開クバ盡セズ  
礮燒クハ則チ精盡久シク置クバ鏽ヲ生ズ體動クハ則チ強  
健久ク臥セハ則チ委弱况ンヤ國家ハ大器日ニ摩洗振刮ス  
ルモ猶塵垢ヲ恐ル置テ用スンハ壞廢放失日ニ弊ニ趨クノ  
ミ今中國ノ人民決シテ用フベカラザルニアラズ而モ將吏  
貪懦遂ニ國ヲ辱メ民ヲ賣ルニ至ルモノ之レ施政ノ方策其  
宜シキヲ得ズ四億万ノ民衆アリテ而モ之ヲ用ユルノ運ヲ  
知ラザルニ歸因スルナリ臺灣ノ地日本ニ割與シテヨリ佛  
ハ雲貴ヲ望ミ英ハ南粵西藏ヲ窺ヒ露ハ新疆及ヒ吉林黑龍  
ヲ得ントシ列強諸國亦タ後ニ耽々逐々トシテ踵ヲ接シテ  
來ラントス中國ノ現状宛モ病後ノ身體元氣既ニ衰弱シテ  
外邪侵シ易ク變症百作スルカ如シ外患内訌禍且夕ニアラ

ソトス須ク今日ニ於テ一大鞏新ノ策ヲ講ゼズンハ蓋シ列強ノ分食スル所トナラシ此ニ於テカ狂愚ヲ揣ラズ敢テ大計ニ及ブ所以ナリ曰ク「士氣ヲ鼓舞スベシ、遷都ノ計ヲ定ムベシ、兵制ヲ改革スベシ、運輸交通ノ便ヲ開クベシ、舊法ヲ改メ新制ニ就クベシ、文明ノ利機ヲ輸入スベシ」連署千五百人滿清老廷ニ向テ一大打撃ヲ加フ是ニ於テカ知ル清國ノ生氣未ダ全ク滅消セザリシコトヲ嗚呼禹域分食セラルレバ東洋ノ命運復タ開クベカラズ日清乖離セバ東洋ノ大事復タ爲スベカラズ我國人タルモノ輔車唇齒ノ關係アル比隣老帝國ノ現狀ヲ見ハ決シテ對岸ノ火災視スルコト能ハザルナリ須ラク天然ノ幫便ヲ利シ人事ノ經營ヲ盡シテ共ニ西力ノ東漸ニ抗拮シ以テ永遠ニ

東洋ノ平和ヲ維持スルニ勉メザルベカラズ是レ我日本帝國ノ任務ナレバナリ否我國が東洋振興ノ責任上ヨリシテ當然ノ本分ナリトス

第三章 官制

中央政府 地方部 屬部

皇帝ニ直轄セラル、内閣ハ全國政務ノ樞機ヲ擁シ内政外交皆之ニ承ケザルナシ而シテ政務ヲ施行スル部分ハ三部ニ區分ス一ハ支那本部ニシテ北京ニ吏部、戸部、禮部、兵部、刑部、工部及ヒ海軍部、總理衙門ノ八省ヲ設置シ其他中央政務ノ機能ヲ處理スルニ必要ナル各衙門ヲ置キ地方ニハ省府州縣ヲ區劃シ地方官ヲ置キ政府ノ指命スルトコロヲ宣承セシム二ハ滿州ニシテ奉天ニ禮、戸、刑、兵、工ノ五部ヲ置キ地

方ニハ將軍及ヒ地方官ヲ以テ轄理セシム三ハ蒙古、西藏ニシテ北京ニ理藩院ヲ置キ地方ニ各藩王、郡王、喇嘛僧ヲ以テ管督セシム實際ヨリ見ルトキハ三政府ノ連合ヨリ組織セラル、ノ觀アリ而シテ三部共命令ノ齟齬スルコトナキハ内閣其上ニアリテ指揮統督スルヲ以テナリ

中央政府

内閣 大學士四人 協辦大學士四人

軍機所 大臣四人 (親王ヲ以テ其長トナス)

軍國ノ機務ヲ翼襄シ國家ノ樞務ヲ贊理ス

總理衙門 總辦一人 幫辦六人 (親王ヲ總辦トス)

外交ニ關スル一切ノ事項ヲ處理ス

吏部 尙書二人 侍郎二人 (滿漢各一人トス)

文官ノ黜陟ト封爵叙位等ノ事ヲ管掌ス

戸部 尙書二人 侍郎二人 (滿漢各一人トス)

財務ニ關スル事項ヲ總管ス

禮部 尙書二人 侍郎二人 (滿漢各一人トス)

教育及ヒ典禮ノ事務ヲ管掌ス

兵部 尙書二人 侍郎二人 (滿漢各一人トス)

軍政及ヒ驛遞ノ事ヲ掌ル

刑部 尙書二人 侍郎二人 (滿漢各一人トス)

律令制定及ヒ庶案ノ審斷ヲ掌ル

工部 尙書二人 侍郎二人 (滿漢各一人トス)

土木軍器製造及ヒ鑄錢等ノ事ヲ掌ル

理藩院 尙書一人 侍郎一人

蒙古西藏伊犁等ノ外藩ニ屬スル事項ヲ管ス

都察院 御史二人 副御史四人

政治ノ得失ト百官ノ邪正トヲ觀察シ紀綱ノ肅正ヲ掌

ル

通政司 使二人 副使三人

内外ノ奏章ヲ上達スル事ヲ掌ル

大理寺 卿二人 少卿二人

最高ノ法院ニシテ刑律ノ肅正ヲ掌ル

海軍衙門 定員ナシ (親王ヲ以テ總辦トス)

新設ノ官署ニシテ海軍ニ關スル一切ノ事務ヲ管ス

地方部

總督 八人

巡撫 十六人

總督ハ地方ノ重權ヲ握リ文武ノ官僚ヲ統ベ巡撫ハ總督ノ下ニアリテ教育刑法ノ事ヲ管シ又官吏黜陟ノ事ヲ綜ブ總督ハ直隸ニ一員之ヲ直隸總督トス江蘇江西安徽ニ一員之ヲ兩江總督トス湖南湖北ニ一員之ヲ兩湖總督トス廣東廣西ニ一員之ヲ兩廣總督トス福建浙江ヲ合セテ一員之ヲ閩浙總督トス四川ニ一員四川總督トス雲南貴州ニ一員之ヲ雲貴總督トス陝西甘肅ニ一員陝甘總督トス巡撫ハ一省一員只直隸及四川ノ二省ハ一省一督タルヲ以テ之ヲ置カズ督撫ノ職責ハ中央政府ノ制令ニ遵ヒ民情ノ向背風俗ノ善惡ヲ察シ機ニ應リ便ニ藉リ務メテ實行ヲ期シ民益ヲ興シ諸種ノ



制度ヲシテ秩然タラシムルニアリ故ニ部ハ例規ヲ守  
リ國典ニ從ヒ地方官ハ實行ヲ主トシテ應變ヲ行フ若  
シ兩者ノ間齟齬スルトコロアルトキハ皇帝親裁ヲ以  
テ可否ヲ決定ス

四二

布政使

徵稅其他省內ノ出納事務ヲ管ス

按察使

罪案ノ審理判決ヲ掌ル

道臺

府縣ヲ總轄シテ地方行政ヲ觀察ス

知府

總督巡撫ニ隸屬シ道臺ノ下ニアリテ民政ヲ統理ス

知州

州內ノ民治ヲ管シ府ニ隸屬ス

知縣

縣內ノ民治ヲ管シ府ニ隸屬ス

滿州ハ省ニ將軍ヲ置キ奉天府ニ五部ヲ設ケ尙書ノ官ヲ置  
カズ次官タル侍郎ヲ置キ郎中、員外郎、主事、筆帖等ノ屬官ヲ  
以テ事務ヲ分掌セシム

將軍

三人

盛京省、吉林省、黑龍江省ノ三省ニ各一員ヲ置キ副都統  
ヲシテ其事務ヲ輔ケシム權限ハ本部ノ總督ニ同シ

戶部

侍郎一人

徵稅及ビ出納ノ事務ヲ管ス

禮部

侍郎一人

四四

陵寢及ヒ祭典等ノ事ヲ掌ル

兵部

侍郎一人

軍事及ヒ郵驛其他官吏銓除ノ事ヲ管ス

刑部

侍郎一人

八旗及ヒ民人其他邊外蒙古ニ對スル刑法ノ事ヲ管ス

工部

侍郎一人

陵寢衙門陣營其他營繕ノ事ヲ掌ル

府尹

一人 (奉天府ニ駐紮)

三省ニ於ル府廳州縣ヲ管轄シ民政ヲ董理ス

道員

四人

兵備道ニシテ府尹ニ屬シ三省中四所ニ分駐ス專ラ境

邊ノ防備ヲ管掌ス

知州

州内ノ民治ヲ管シ府尹ニ隸屬ス

知縣

縣内ノ民治ヲ管シ府尹ニ隸屬ス

内外蒙古ハ各部略ニ藩王ヲ置キ理藩院ノ統督ヲ受ケ西藏  
ハ喇嘛ヲ封シテ王トナシ駐藏大臣ヲ以テ其治ヲ管掌セシ  
ム又皆理藩院ノ督勵ヲ受ク

文官ノ品級

內閣大學士	正一品	俸銀百八十兩	俸米百八十斛
六部尙書	從一品	全上	全上
都察院御史	從一品	全上	全上

知縣	知州	知府	道臺	按察使	大理寺卿	通政司	都察院副御史	各省布政使	各省巡撫	各省總督	六部侍郎
正七位	從五品	從四品	正四品	從三品	正三品	正三品	正三品	從二品	從二品	正二品	正二品
俸銀四十五兩	俸銀八十兩	全上	俸銀百五兩	全上	全上	全上	俸銀百三十兩	全上	俸銀百五十兩	全上	俸銀百五十兩
俸米四十五斛	俸米八十斛	全上	俸米百五斛	全上	全上	全上	俸米百三十斛	全上	俸米百五十斛	全上	俸米百五十斛

物ニ利害ノ相伴フハ天下ノ通理ナリ清朝ノ如キ其國ヲ守ルヤ注意周密精細ニシテ加フルニ官制ノ能ク整フモノアリテ間然スルトコロナキガ如シト雖而モ治化ノ功未ダ必ズシモ擧ラザルモノアルハ何ゾヤ蓋シ三百年ノ今日ニ下リ諸般ノ政治機關次第ニ崩壞シ來リ人民ハ文弱姑息ニ流レ官吏ハ遊惰放逸ニ耽リ遂ニ窮極スルトコロヲ知ラザルモノ、如シ而シテ今日清國ノ官制トシテ官吏ノ俸祿甚ダ薄キト監察官ノ多キトハ又其弊害ヲ喚起スル所ノ原因タラズンバアラザルナリ彼ノ京官ノ如キ一品ノ高位ニアルモノニシテ年俸僅カニ百八十兩米百八十斛ニ過ギス地方總督ノ如キ俸祿養廉銀其他ノ雜給等一切換算シテ四千餘兩ニ過ギス知縣ノ如キ又前記ノ少額ナレバ内ハ多數ノ親

族子弟ヲ養ヒ外ハ上官知友ニ交誼ヲ修ムル等其費用ノ能ク支フル所ナランヤ假令廉清ノ士其局ニ當ルモ衣食養蓄ノ資ニ於テ是非共別途支出ノ方法ヲ求メザルベカラズ况ソヤ天下悉ク廉正ナル人士ノミナランヤ人心ノ利ヲ好ムハ名ヲ好ムニ勝レルモノアルニ於テチヤ此ヲ以テ京官ハ地方官ト通シ陰ニ其賄賂ヲ貪リ地方官ハ京官ヲ恃テ應援トナシ以テ其身ノ地位ヲ固メントス總督巡撫ノ高官ニ在ルモノ内ハ幕友ヲ招聘シ外ハ多數ノ書吏從僕ヲ養ヒ且ツ交際繁劇ナレバ俸祿ノミヲ以テ給足シ難シ故ニ種々ノ名目ヲ付シテ所屬知府知縣ヨリ強求スルニ至ルナリ然シテ知府知縣ノ如キ内ハ眷族ヲ養ヒ外ハ上憲トノ交誼アルハ少額ノ俸祿焉ゾ能ク周給スル所ナランヤ而モ屬吏ノ取

ルベキナクレバ則チ名ヲ設ケテ民ニ課スルニ至ル此ノ如クニシテ上ハ屬吏ニ求メ屬吏ハ人民ニ求メ遂ニ其止ル所ヲ知ラザルナリ  
知府知縣ノ如キ位甚ダ高カラズト雖モ實ニ民政諸務ヲ董理シ租稅ヲ徵收シ訴訟ヲ斷定スル等頗ル重任ヲ以テ直接ニ下民ニ接スルモノナリ其上ニ道臺アリ按察使アリ巡撫總督アリテ常ニ其職務ヲ監督ス此ヲ以テ府縣官ノ多數ハ實務ヲ棄テ、專ラ監督者ノ意思ヲ奉承セシコトヲ勉メ以テ自己ノ地位ノ安全ヲ計ルニ至ル思フニ監督者ヲ設クルノ主意ハ守職者ヲシテ能ク其職ニ勉勵セシムルニアリ然ルニ其結果却テ反對ノ觀ヲ表スモノアルニ至ルハ抑モ清廷末路ノ然ラシムル所カ今日ニ於テ之ガ救正ノ策ヲ講ゼ

五〇  
ズンバ清朝ノ未來ハ未ダ知ルベカラズ之ガ救正ノ術タル  
一二ニ留ラズト雖官制ノ勵行ヲ期シ活用ノ人才登用シ俗  
吏腐儒ヲ更革シ以テ政事ノ弊害ヲ洗滌スルハ清國今日ニ  
於ル一大急務ナリトス

第四章 財政

歲出入、地租、鹽稅、厘金稅、海關稅、關稅、鴉片稅、雜稅、  
財政ノ散漫不整理ナル清廷ハ日清戰役後償金ノ支途ノ爲  
メニ歐洲市場ニ向テ新ニ公債ヲ募集シタルヨリシテ益々  
窮迫ヲ極メ到底此ニ其財政上ニ向テ一大革新ヲ行ハザル  
ベカラザルノ場合トナレリ是非共從來ヨリ巨大ナル歲入  
ヲ得ザルベカラズ然ラザレバ到底其戰後ノ經營ヲ能クス  
ベキニアラズ

凡ソ清政府ノ歲入ハ地租(銀納米納)鹽稅、厘金稅、海關稅(新關)  
關稅(舊關)阿片稅(內地產)及ヒ雜稅(諸種商業ノ免許稅并ニ農  
工業ノ營業稅)等ニシテ合計一億万兩ニ上ラズ而シテ此數  
額タル各省ヨリ徵集スル所ノ總額ニシテ各省ハ其徵集セ  
シ額内ニ付キ所管ノ用度ヲ辨シ官吏ノ俸祿ヲ支出シ殘額  
ノ中ヨリ地方貯蓄金ヲ引去リ毎年所定ノ數額ヲ中央政府  
ニ送致ス北京戶部ハ之ヲ受取り以テ中央政府ノ用度ニ預  
出スルノ制ナリ實ニ四億万ノ人口ヲ有シ三十万方里ノ廣  
土ヲ管スル此大國ノ歲入トシテハ到底收支相償フコト能  
ハザルバシト雖此レ即チ清廷唯一ノ憲法トシテ頼ムトコ  
ロノ大清會典ニ規定セル所ナルヲ以テ今日俄ニ之ヲ變更  
スルコト能ハザルナリ

一、地租穀納 約六百万圓

從來貢租ハ悉ク正米ヲ以テ各省ヨリ納メシメタリシモ其  
運送費用等非常ニ多キニ苦ミタルヲ以テ江蘇安徽浙江ノ  
三省ヲ除クノ外ハ代銀納ニ改メタリ而シテ知縣ノ手ニ於  
テ徵集セル穀價ハ其地ノ時價ヨリモ高キコト二倍若クハ  
三倍以上ナルヲ常トス故ニ穀價ノ賤落セル年ニ於テハ納  
稅者爲ニ困難スルユト極メテ甚シ

二、地租銀納 約二千五百万兩

此徵集ハ各省共知縣ノ任務ニシテ其期間徵收總額若干ト  
シ其内ヨリ縣内ニ支出スル定額金ヲ控除シ殘餘ヲ布政使  
ニ報明輸送スルモノトス各省布政使ハ府縣知事ヨリ送致  
セル徵収明細書及ビ金額ヲ稽查シ計算書ヲ作りテ之ヲ中

中央政府戶部ニ上呈ス然ルニ實際各地主ガ地方官吏ニ向テ  
納ムル所ハ戶部所定ノ額ヨリ遙ニ夥多ニシテ實ニ二千五  
百万兩ノ倍額ハ各地主ヨリ徵収セラル、モ中途ニ於テ消  
耗シ地方官吏ノ手ニ入ルモノトス即チ吏務ノ腐敗ヨリシ  
テ中央政府地租收入ノ減少モ此弊源ヨリ來レルナリ即チ  
地方吏自己一人ヲ肥サントスルカ爲ノミニアラズシテ其  
上司ニ贈賄センカ爲メニ不正ノ徵稅ヲ課シテ以テ地主ヨ  
リ奪フナリ

三、鹽稅 約二千四百万兩

此稅率ハ元ト一時經費ノ不足ヲ補フヨリシテ設ケタルモ  
ノナレドモ其歲入ノ大宗トナルニ及ビテハ最早之ヲ放棄  
スルコト能ハズ其法タル沿海及井池其他鹽分ヲ有スルノ

地ハ悉ク之ヲ官有ニ歸シ官自ラ人ヲ募リ地ヲ開キテ製塩ノ場トナス之ヲ總轄スルニ鹽政大臣ヲ以テス其製造地區域ヲ規定シ各區内鹽商ノ定額ヲ設定シテ免許商人若干ヲ限リ其區内ノ製鹽販賣ノ業ヲ營マシム清國ノ爲ニ計ルニ財源ノ増殖ヲ欲セバ斷然此官有製鹽ノ法ヲ廢止シ民業ニ移シ其徵稅ハ他ノ製造物ニ賦課スルガ如クセハ則チ民間ニ在テハ却テ賤價ヲ以テ純鹽ヲ食スルコトヲ得ベク官ニ在テハ局ヲ設ク吏ヲ置クノ費ト煩トチ省クヲ得テ財源ノ増殖ヲ企圖シ得ベク上下共ニ其便益ヲ享クンナリ

四、厘金稅 約一千三百万兩

内地ノ貨物運稅ニシテ商品通過ノ要所ニ設置シ清國歲入ノ一大源タリ元來此局ノ設タル髮逆ノ當時財路ノ不足ヲ

補フノ方法トシテ曾國藩胡林翼ノ諸士協議熟慮ノ末長江一帶ノ地ニ設置シ以テ通過ノ貨物ニ課稅シ漸ク軍餉ヲ補助シタルニ基因スルモノニシテ今日ニ至リテハ各省到ル所名目ヲ付シテ此局ノ設置アラザルナシ即チ貨物ヲ送ルコト遠ク局ヲ經ル多キモノハ此稅金ノミニテ原價ノ數倍ニ上ルコトアリ此賦課法ハ原價ノ百分三ヲ以テ準トナス此徵集額ヲ以テ勇兵費ニ充テ其他各省内ノ新事業費及ヒ戶部臨時ノ徵求ニ應ズ

抑モ此厘金ナルモノハ髮逆ノ平定後直ニ之ヲ廢止スルノ計畫ナリシモ却テ其施行區域ヲ擴メ隨テ弊害ハ益々百出シテ小民ハ勿論資産家モ爲ニ其紛擾ニ苦シミ產ヲ破リ業ヲ失フニ至ル要スルニ厘金稅施行ノ當初ニ在リテハ其局

員ノ撰擇宜シキヲ得タルヲ以テ抽收ノ弊害ナカリシモ今日ニ至リテハ各地無能ノ諸生及游手浮食ノ徒爭フテ厘局ニ賄シテ其雇員トナリ妄ニ支局ヲ分置シ勒索苛徵而モ其商估ノ賄賂ノ多少ニヨリ寬猛操縱ヲ異ニス此ノ如クニシテ搜括貪取セララル、トコロノ厘金ノ大半ハ皆私囊ニ入ル

五、海關稅 約二千二百萬兩

即新海關ヨリ徵收セルモノニシテ外國ト交通ヲ開キシヨリ設置セラレタル稅目ナリ此稅關吏員ハ概ネ英人ニシテ全國雇外人ノ數六百餘人一管區毎ニ稅務司アリ之ヲ總轄スルモノヲ總稅務司ト云フ英國人ヲ以テ之ニ充ツルノ制ナリ而シテ何レモ海關道臺ノ監督ノ下ニ屬スルヲ例トス此課目ハ外國ト交通ノ結果トシテ生ズル所ノモノナルヲ

以テ專ラ外交上ノ費途ニ充ツ即チ在外公使館領事館留學生ノ諸費海關局ノ經費及官吏ノ俸給等ニ支出シ殘餘ノ幾分ヲ以テ南北洋水師費ノ補助及ヒ中央政府ノ政費補助トス

此海關吏員ハ書記小使ヲ除クノ外ハ概チ英人ニシテ貨物ノ出入ノ全權全ク彼英人ノ手裡ニアルヲ以テ歐米人ハ直接間接ニ莫大ノ利益ヲ享クルト雖我日本人若ハ清人ニ在リテハ或ハ踈遇叱咤ノ下細密ノ課稅ヲ命ゼラレ或ハ一刻ノ差輸出入ノ商機ヲ誤リ或ハ空ク關前ニ貴重ノ光陰ヲ徒消シ貨價ノ變厄ヲ蒙ル等其不利幾許ナルヲ知ラズ從テ收入上ニ至大ノ影響ヲ來スノ恐レアリ政府須ラク此海關法ヲ更革シ其全權ヲ中央政府ノ下ニ掌握セバ蓋シ增稅ノ途



ニ於テ大ニ得ルトコロアルベキナリ嗚呼止ヲ得ザルノ結  
果トハ雖鉅万ノ國帑ヲ以テ外人ノ手ニ委シ機察ノ大權ヲ  
放擲シテ一國ノ關門ヲシテ空ク外人ノ蹂躪ニ任カス豈寒  
心ニ堪ヘンヤ

六、關稅 約四百萬兩

内地舊稅關ニシテ大清會典ニ凡ソ水陸衝會舟車ノ輻湊ス  
ル所商旅ノ聚集スル所官ヲ設ク尹ヲ置キ其治禁ヲ掌リ行  
旅ヲ安ヲ以テ貨賄ヲ通シ爰ニ此ガ稅ヲ繫ク以テ詞幾ヲ便  
シ國家ノ經費ヲ佐ク云々トアリ乾隆十八年ノ調査ニヨレ  
ハ全國中四十二ヶ所ノ關門アリテ其收稅四百三十餘萬兩  
ナリ通過貨物原價ノ百分五ヲ抽稅ス  
其徵稅ノ法ハ豫メ其入額ヲ定メテ主任官ニ一任ス故ニ其

收稅額ノ定額ヨリ不足スルトキハ主任官之ヲ賠償シ若シ  
餘裕アルトキハ主任官之レヲ自己ノ囊中ニ收ム入稅多額  
ナル稅關ニ赴任スル官吏ハ任期中非常ニ巨額ノ役得アリ  
之ニ反シテ入稅ノ定額ヨリ少キ稅關ノ官吏ハ其賠償ヲ免  
ル、爲メニ種々ノ奸騙ヲ運ラシ上ヲ欺キ下ヲ虐ケ亦若干  
ノ餘剩ヲ作りテ之ヲ自己ノ囊中ニ收ムト云フ

七、鴉片稅 約二百二十餘萬兩

内地產鴉片稅ニシテ外國輸入ノ阿片ニ賦課スル海關稅ト  
ハ全ク別種ナリ江蘇、湖南、湖北、四川、廣東等重ナル產出地ト  
ス今日ニ至リテハ内地阿片ノ種培ハ益々其途ヲ擴メタレ  
バ實際ニ精査セバ稅額モ今日ノ數倍ニ止マラザルベシ阿  
片ノ害毒タルハ世人ノ知ル所勤者ハ之ヲ樂テ惰トナリ強

者ハ之ニ耽リテ弱トナル元氣ヲ消磨シテ身心甚ス兩廣總督林則徐其民ヲ害シ其國ヲ毒スル甚シキヲ察シ嚴令ヲ下シテ英人ヲ逐ヒ其載積セル阿片數万箱ヲ燒毀シ士民ノ吃咽ヲ禁ズ而モ之ガタメニ英國ト戰端ヲ開キ遂ニ南京條約ニ因テ五港ヲ開キ鴉片ノ輸入ヲ公許ス近年ニ至リテモ當局者中此ニ見ルアリ屢々阿片ノ輸入ヲ禁止セント試ミタリシモ到底正理ノ以テ爭フベカラザルヲ察シ先ツ令ヲ出シテ内地各省ニ阿片ノ種植ヲ公許獎勵シ國產ヲ以テ輸入ヲ防遏セントシタリシモ却テ反對ナル結果ヲ來シ輸入阿片ノ價格ヲ下落セシメタルノミニ止リ其意ヲ達スルコト能ハサリシ若夫レ到底其害毒タルヲ知ルモ而モ之ヲ禁歇スルコト能ハザレバ寧ロ之ニ苛重ノ稅率ヲ課シテ一方ニ

其防遏ノ道ヲ斗リ一ハ以テ財政ノ不足ヲ補フコト亦一舉兩得ノ急務ナリトス  
八、雜稅 約五百萬兩  
諸種、免許料、營業稅、仲買人、免許稅、土地讓渡手數料、家蓄稅、魚類稅、等トス  
要スルニ清國現時徵稅ノ權種々ニ分岐シ紊亂複雜一モ之ヲ統一スルコトヲ得ズ而モ其吏員ノ不正ナルヨリシテ今日ノ困弊ヲ來スモノナリ吾人ハ清國ニシテ行政ヲ整理シ財政ヲ釐革セバ此ノ困弊ヲ救成スルニ難カラザルヲ信ズルモノナリ其地積ノ點ヨリシテ人口ノ點ヨリシテ果タ其富源ノ點ヨリシテ其財源ヲ得ルノ道ヲ發見スルコト蓋シ容易ナルベキヲ信ズルナリ而モ其地租ノ一科ノミニテモ

今日ノ五倍ハ得ラルベキナリ即チ地租ノミニシテ一億兩  
ハ徵收セラルベキナリ要ハ全國田畑ノ實地踏査ヲ行ヒ課  
税ノ賦課ヲ一定シ徵税ノ權ヲ一握シテ之ヲ高等官衙ニ一  
括スルニ在リ  
在上海英國總領事ヤマソン氏ノ清國財政近狀報告ニ係  
ル一節中一千八百九十三年ニ於ル清帝國ノ歲入歲出全計  
表ヲ左ニ掲ク

清帝國歲入歲出全計表

○歲入科目

各科收入額

(イ) 地租

銀納

二五、〇八八、〇〇〇兩

穀納

六、五六三、〇〇〇兩

(ロ) 鹽稅及厘金

一三、六五九、〇〇〇兩

(ハ) 厘金稅

一、二九五二、〇〇〇兩

(ニ) 海關稅

二一、九八九、〇〇〇兩

(ホ) 內國關稅

一、〇〇〇、〇〇〇兩

(ヘ) 阿片稅及厘金

二、二二九、〇〇〇兩

(ト) 雜稅

五、五五〇、〇〇〇兩

合計

八八、九七九、〇〇〇兩

○歲出科目

各支出額

(イ) 北京行政旗兵并帝室費

一九、四七八、〇〇〇兩

(ロ) 海軍衙門費

五、〇〇〇、〇〇〇兩

(ハ) 南洋艦隊費

五、〇〇〇、〇〇〇兩

(ニ) 海防費練兵教師費

八、〇〇〇、〇〇〇兩

(ホ)	滿州防禦費	一、八四八、〇〇〇兩
(ヘ)	甘肅及新疆防衛費	四、八〇〇、〇〇〇兩
(ト)	雲南貴州兵費補助	一、六五五、〇〇〇兩
(チ)	外國債利子償還費	二、五〇〇、〇〇〇兩
(リ)	鐵道新設費	五〇〇、〇〇〇兩
(ヌ)	工業治水費	一、五〇〇、〇〇〇兩
(ル)	海關燈臺浮標稅關	二、四七八、〇〇〇兩
	巡視船等費	
(ヲ)	十八省行政費及軍備費	三六、二二〇、〇〇〇兩
	合計	八八、九七九、〇〇〇兩

第五章 兵備  
 兵制 八旗 綠營 勇兵 海軍

清國ノ常備陸兵ハ八旗綠營ノ二種ニシテ別ニ變アルニ當  
 リ臨時ニ募集シタル民兵ヲ鄉勇ト稱ス即チ現時ニ於ル勇  
 軍練軍等之レナリ  
 八旗兵ハ愛親覺羅氏ノ初メテ天下ヲ統一セシ際從軍セシ  
 精銳ニシテ軍旗ノ色ヲ以テ之ヲ八部ニ區分シ滿州本部ノ  
 兵ヲ滿州八旗トシ蒙古ノ歸附セルモノヲ蒙古八旗トシ漢  
 人ヨリ成レルモノヲ漢軍八旗トシ合セテ二十四旗アリ而  
 シテ其旗ハ分テ正黃、正白、正紅、正藍、鑲黃、鑲白、鑲紅、鑲藍ノ八  
 旗トス每旗ニ都統一人ヲ置キテ之ヲ統轄ス而シテ此八旗  
 兵ハ京城及ヒ各省内ニ分駐セシメ或ハ直隸省内ニ地ヲ賜  
 リ農耕ニ從事スルアリ何レモ皆世襲ノ軍卒ニシテ我舊時  
 ノ藩士ニ類スルモノナリ其數凡ソ二十萬ト稱ス

綠營ハ同ク清ノ太宗ノ都ヲ北京ニ定メタリシ際漢人ノ功  
勞アルモノ若クハ其子孫ニ取リタルモノニシテ軍旗ノ徽  
號ハ綠色ヲ用ヒテ八種ニ分テリ何レモ各省ニ分駐セシメ  
其總數ハ大約六十萬ノ多キニ及ブト云フ

砲甲	領催	委署驍騎校	佐領	參領	都統	領侍衛內大臣	八旗官名	將軍	副都統	副參領	驍騎校	馬甲	敖爾布
		(從六品)	(正四品)	(正三品)	(從一品)	(正一品)		(從一品)	(正二品)	(正四品)	(正六品)		

步甲

養育兵

綠營官名

提督	副將	遊擊	守備	把總	外委千總	額外外委	步兵	總兵	參將	都司	千總	外委把總	馬兵	守兵
(從一品)	(從二品)	(從三品)	(正五品)	(正七品)				(正二品)	(正三品)	(正四品)	(從六品)			

此種常備兵ハ今日非常ノ衰弱ニ陥リ又用ニ堪ユルモノナ  
ク向キニ太宗ノ明朝ニ代リテ關内ニ入ルニ當リテヤ無前

ノ銳鋒ト稱セラレタルモノ今日ハ無賴ノ群ト唱ヘラル、ニ至レリ政府ニテモ亦之ガ爲スナキヲ認ムルモノ、如シ而シテ其實力モ亦日清戰役ニ因テ證據立ラレタリ現時只僅ニ兵ノ資格ヲ備フルモノハ即チ有事ノ際ノ臨時募集ニ關ル勇兵ノミトス髮逆ノ擾亂十八年ノ久シキニ互リ頗ル猖獗ノ勢ヲ逞フセシメタルモノ遂ニ能ク平定ノ功ヲ奏シタルモノハ曾國藩胡林翼ノ諸名士ガ民間ノ強壯勇健ナルモノヲ集メ以テ軍伍ヲ編成シタル湘軍ノ力ナリト云フ李鴻章直隸總督タルノ日又江北ノ壯丁ヲ募リ淮軍ト稱シ專ラ已レノ部下ニ屬セシメテ洋式ノ訓練ヲナサシメタリ練軍ハ髮亂平定ノ後ニ至リ綠營兵ヲ淘汰訓練セシモノニシテ亦清國現時ニ於ケル比較的的精銳ナリトス此勇軍ノ總數

合シテ二十五萬トス

今日清廷財政困難ノ時ニ當リ常備兵タル八旗綠營ノ外勇兵ヲ撫養スルハ經費ノ點ニ於テ頗ル難シトスルトコロナリ然ラバ今ニ及テ綠營ヲ解散センカ只恐ル幾多無食ノ徒ヲ山林ニ放チ結黨反亂ノ禍ヲ惹起サンコトヲ是ニ於テカ綠營ニ給スル費用ノ若干ヲ割テ勇ニ與フ兩全ノ計ニ似タリト雖綠營及ヒ勇ニ在リテハ全額ヲ食ム能ハズ從テ暴行強迫小民ニ求メテ囊中ヲ沾スニ至ルモノ所在皆然リトス故ニ俚諺ニ「好鉄不打釘好人不當兵」ノ毀アルニ至ラシム又其八旗兵ノ如キハ滿清政府ノ賴テ以テ固トセシ所ニシテ給與ヲ裕ニシ專ラ武事ヲ習練セシム然ルニ近來ニ至リテハ勇武ノ風地ヲ拂ヒ懶怠放逸ニ陥リ先年哥老會匪ノ長

江一帶ノ地ニ蜂起シテ擾亂ヲ醸セシ時ニ際シテハ鎮江紫  
 駐ノ八旗兵ノ如キ遂ニ匪徒ノ陰謀ニ與ミスルニ至レリ此  
 レ實ニ清政府ノ頼ムベキモノ頼ムベカラザルニ至リシ一  
 證ナリ凡ソ英傑ノ士其國ヲ平壓スルヤ皆能ク其親ムベキ  
 頼ムベキモノヲ以テ各要地ニ配置シ一般ノ鎮靜トナシタ  
 リ然ルニ世ヲ經ル久シキニ至リ其頼ムベキモノ頼ムベカ  
 ラザルニ至リテハ以テ其朝ノ命運ヲトスルニ足ルベキナ  
 リ之ヲ例セバ吾舊幕府カ頼テ以テ各地ニ配付セシ譜代ノ  
 諸大名ガ遂ニ頼ムベカラザルニ至リテ滅亡ニ歸シタルコ  
 トハ今日滿清帝國ノ尤モ考フベキ前轍ナリトス  
 海軍ハ南洋水師北洋水師廣東水師福建水師ノ四部ニ區別  
 ス日清戰役前迄ハ艦隊ノ數大小併セテ九十餘隻ナリシモ

就中其銳ナルモノ而モ其完全セル所ノ北洋水師所屬ノ艦  
 隊ハ或ハ捕撃セラレ或ハ擊沈セラレ或ハ燒棄セラレタル  
 テ以テ殆ト全滅ニ歸シ且ツ其實力如何モ世人ニ知悉セラ  
 レタリ而モ今日其創痍ノ大ナル容易ニ回復ノ見込ナシ此  
 外長江水師ト稱スルアリ之レ又水軍ノ一ニシテ咸豐年間  
 髮賊ノ横行ニ際シテ創設セルモノニシテ平定後モ尙楊子  
 江一帶ノ要地ヲ分守シ以テ江上ノ警備ニ任ス  
 清國軍政ノ廢弛ヤ其極ニ達セリ今日ニ於テ斷然革新ノ策  
 ニ出ツルコトナクンバ遂ニ兵ノ實ヲ失フニ至ランナリ宜  
 ナリ頃日ニ至リ民間ノ志士交々立テ兵制ノ變革ヲ主唱シ  
 自強ノ策ヲ論究スルモノアルニ至リ政府亦稍ヤ此ニ意ヲ  
 注グニ及ベリ若シ此間ニ立チテ啓發誘導ノ任ニ當ランカ

此革新ヲ成シ遂グルコト豈敢テ難事ナラシヤ要スルニ兵制ノ變革ト稱スルモノ大要左ノ數點ニアリトス

- 一、兵員ノ給與ヲ裕ニシ他業ヲ兼營スルヲ嚴禁スベシ
  - 二、冗兵ヲ汰シテ綠營及勇兵ヲ合一スベシ
  - 三、旗兵ヲ鼓舞革新スベシ
  - 四、國民皆兵ノ主義ヲ實行スベシ
  - 五、新式ノ訓練法ヲ採リ外國ノ士官ヲ雇用スベシ
  - 六、銃器軍械ヲ精銳ニスベシ
  - 七、兵學校ヲ擴張シテ士官ヲ養成スベシ
  - 八、武者ノ制度ヲ廢止スベシ
  - 九、海軍ヲ整理シテ艦隊ヲ充實セシムベシ
- 今日ノ清兵ト稱スルモノ其將士兵丁ノ訓練其宜シキヲ得

ザル者ナルベシト雖モ歴史ト感情トノ上ヨリシテ滿清政府ノ政策ヲ誤リタルノ致ス所ナラズンバアテズ予輩征清ノ軍ニ從ヒ幾多感激ニ堪エザルモノアリキ彼等ノ捕虜中ニハ頑固ニ抵抗シ若クハ終始一言ヲ發セザルモノアリ此等ノ輩ニ至テハ從容トシテ死ヲ恐レズ不敵ニモ男子ラシキ觀アリ實ニ彼等ハ利ノ爲ニ心ヲ左右ニス利ノアラソ限リハ之ヲ追逐ス一旦利ノ盡クルヲ見ルニ至テハ頑タルコト鐵石ノ如ク一毫モ其心ヲ曲クズ刀鋸鼎鑊恐ル、所ニアラズ所謂賁育モ奪フベカラザルノ勇アルヲ見ル若シ清廷ノ政策ニシテ其所ヲ得タラソカ此民以テ大ニ用ユベク此國以テ大ニ興ルベシ惜ヒ哉政策其緒ヲ悞リ一時ノ糊塗ヲ事トシ百年ノ大計ヲ知ラズ滔々タル者ヲ驅テ遂ニ怙息偷



安ノ弊ニ陷ラシム痛ムベキ哉

第六章 法律

法制 保甲制度

清國ノ律令ニハ吏律アリ戸律アリ禮律アリ刑律アリ工律アリテ各其管掌スル所ヲ異ニス縱令バ官吏收賄罪ノ如キハ吏律ニ照據シテ處斷シ戸籍ニ關スル犯罪ハ戸律ニ問ヒ普通人民間ノ盜犯ノ如キハ刑律ノ管スル所タルガ如シ而シテ其法律施行ノ順序タル頗ル慎重周到ニシテ更ニ一點ノ非難ヲ下スノ餘地ナキガ如シ若シ一地ニ犯人アルトキハ知縣ハ之ヲ捕拏シテ律ニ照シ刑ヲ擬定シ以テ知府ニ送致シ知府ハ之ヲ道臺ニ送致シ道臺ハ之ヲ按察使ニ致シ按察使ハ巡撫ノ檢定ヲ經テ之ヲ中央政府ニ具申シ然ル後其

刑ヲ確定スルノ手續ナリ此間若シ犯者ニシテ刑ノ適用上ニ付不服ナルトキハ其子弟親族ノモノヨリ北京都察院ニ上告スルコトヲ得ルモノトス若シ此上告アリタルトキハ都察院ハ皇帝ニ上奏シ更ニ地方官ヲ經テ再ヒ審議ヲ盡サシム一犯ヲ處理スル尙此ノ如ク慎重ナリト云フベシ然ルニ人民甚ダ其德ニ感ズルニ至ラザルノミナラズ却テ訟事ヲ忌惡スルコト虎狼ノ如キ思ヲナスニ至ラシムルモノ又故ナキニアラザルナリ凡ソ清國ノ官制ニ規定スル所大ハ總督巡撫ヨリ下ハ知府知縣ノ小吏ニ至ル迄何レモ其郷里ノ各省ニ任官スルコト能ハズ故ヲ以テ廣東人ニシテ山東省ノ知府トナリ雲南省出身ノ人ニシテ浙江省ノ知縣ニ任ゼラル、ヲ以テ始メテ其任ニ就クヤ其地ノ慣習ヲ知ラズ

其省内ノ事情ニ通ゼス殊ニ言語ノ錯雜セルモノアルヨリ  
シテ止テ得ズ幕賓ト稱スル一種ノ秘書官顧問官ノ如キモ  
ノヲ置キ一切萬事之ト商量シ處理スルモノナルヲ以テ幕  
賓ハ其上官ノ迂濶頑迷ナルニ乘リ權ヲ弄シテ放恣至ラザ  
ルナシ而シテ各廳何レモ事務ヲ處辨セシムル書記十數名  
ヲ置ク之ヲ名クテ書吏ト稱ス此輩亦タ幕賓ニ結托シ自己  
ノ慾望ヲ擅ニシ民治ニ關スル知府知縣ノ意見ハ悉ク此等  
書吏幕賓輩ノ計畫錯置スル處ナリ故ニ俚言ニ「明ノ亡ハ官  
宦ニアリ清ノ亡ハ書吏ニアリ」ト歌ハシムルニ至レリ以テ  
其放恣ノ狀想像スベキナリ而シテ又此書吏ノ配下ニ屬シ  
衙門ニ在リテ諸種ノ雜役ニ從事スルモノ衙役ト稱スルア  
リ此等ハ何レモ無俸給ニテ訴訟徵稅其他事故アリテ人民

ニ令狀ヲ回達シ或ハ人民ヲ拘致スル等ノ雜役ニ服スルモ  
ノナリ而シテ平生事ナクレバ彼等ノ得ル所少ク幸ニ一事  
アレバ此ヲ奇貨トシテ其家ニ入り百方逼迫シテ財ヲ貪ル  
ニ至ル故ヲ以テ中人以下ノ家ニ在テハ訟事未タ半ナラズ  
シテ其財產己ニ蕩盡スルニ至ルト云フ以上ノ書吏衙役ノ  
輩ハ常ニ上下ノ中間ニ在リテ上下ノ事情ヲ壅塞シ以テ私  
事ヲ之レ營ムノ鼠輩ナリ然ルヲ以テ訟事ニ於ケル曲直モ  
亦此輩ニ對スル贈賄ノ多少ニ因テ決スルコト多々ナリト  
云フ  
頃日新紙ヲ閱スルニ言ヘルアリ安徽某所ニ盜アリ被害者  
之ヲ捕ヘテ官ニ訴フ官之ヲ獄内ニ繫ク數十日ヲ經テ之ヲ  
理セス此ニ於テ被害者賄賂ヲ行フテ其吟味ヲ依頼ス時ニ

賊ノ縁者モ亦多額ノ賄賂ヲ贈テ之レカ放免ヲ請フ官吏被  
 害者ノ賄賂少キヲ見賊ノ縁者ノ言ヲ容レテ之ヲ放免セシ  
 ト云フ又曾テ湖南ノ巡撫タリシ某放恣專横ニシテ人民ヲ  
 虐待シ惡事非行一トシテ爲ササルコトナカリシカバ人民  
 ハ之ヲ厭ヒ屢々政府ニ彈劾シタリシカバ遂ニ其罪惡政府  
 ノ耳朵ニ達シ都察院ヨリ御史ヲ派遣シテ其成績如何ヲ檢  
 査セシムルコト、ナリタリ御史ノ命ヲ銜ミテ湖南ニ入ル  
 ヤ巡撫某大ニ恐レ自己ノ惡德非行ヲ蔽ハンガ爲メニ夜間  
 窃カニ御史ノ旅館ヲ訪ヒ萬金ヲ懷ニシテ之ヲ贈リ以テ自  
 己ノ罪惡ヲ陰蔽セシコトヲ乞ヒシニ御史ハ之ヲ見テ大ニ  
 喜ビ遂ニ萬金ノ收賄ニ目眩シ膽奪ハレ敢テ一事ノ成績ヲ  
 檢スルコトナク直ニ北京ニ歸リ政府ニ復命シテ曰ク湖南

ノ巡撫某學才能ク其任ニ堪ヘ經歷其職ニ適ヒ治蹟彬々ト  
 シテ頗ル見ルベキモノアリ然ルニ惡評ノ屢々朝廷ニ來リ  
 シモノハ其幣ヲ厚フシテ左右ニ媚ヒザルガ故ノミト即墨  
 ノ故事ヲ援テ之ヲ賞賛セシカバ朝廷ハ之ヲ信シテ遂ニ此  
 巡撫某ハ昇進シテ隣省ノ總督トナレリト云フ噫此無道ノ  
 巡撫ノ萬金ヲ以テ總督ノ榮職ヲ購ヒタルモノト云フベキ  
 ナリ  
 夫レ都察院御史ノ職タル政事ノ得失ト百官ノ善惡トヲ觀  
 察シテ皇帝ニ上奏シテ綱紀ノ肅正ヲ掌ルモノナリ此ヲ以  
 テ文武官僚ノ黜陟進退ハ悉ク其手中ニ在リテ頗ル重職ト  
 ナス然ルニ其大任ヲ有スル御史ノ官ニシテ此ノ如クナル  
 ハ抑モ清朝ノ末路然ラシムル所カ嗚呼一國ノ獨立ハ綱紀

肅否ノ如何ニ存ス法如何ニ美ナリト雖綱紀肅正ナラザレ  
バ徒法ノミ死制ノミ其治ニ於テ何ノ益カアラシヤ  
以上ノ如キハ清國行法上ニ於ル今日ノ常習ナリ故テ以テ  
一旦事起ルモ人民ハ之ヲ厭フテ官ニ訴フルコトヲナサズ  
却テ郷里町村ノ長老有徳者ニ裁定ヲ乞フノ姿トナレリ此  
等ノ状態ヨリ觀察シタル清國民ハ止ヲ得ズシテ自然ニ自  
治体ヲ組織スルノ風アリ又奇ナリト云フバシ  
故英國公使ウエード氏ハ頗ル支那ニ對シテ好意ヲ表シタ  
ルノ人ニシテ又勉メテ清國上流ノ士ニ改進主義ノ政策ヲ  
取ルベキコトヲ忠告セルコト屢バナリキ然シテ氏ガ清國  
ノ爲メニ尤モ大害アルモノトシテ排斥セザルベカラザル  
ヲ論ヨタルハ御史ノ官ナリシ即チ清朝ヲ亡スモノハ御史

ナリトノ忠告ヲ當局ニ致セシコトアリ是乃ハチ現時御史  
ノ其諫議彈劾ノ大義ヲ辨ゼズシテ其國家大事ノ利弊得失  
ニ暗ク徒ラニ頑迷固陋ノ腐説ヲ固守シテ進取的革新ノ事  
業ヲ妨碍沮格スルノ害毒タルヲ觀破シタルニ因テナリ  
夫レ國家ハ個人ノ集合ヨリ成ル國政ノ弛張ハ地方制度ノ  
肅否ニアツテ存ス支那ノ國情ヲ講究セントスルモノハ須  
ラク地方自治ノ概要ヲ知ラザルベクンヤ現今各地ニ實行  
サレツ、アル保甲制度ノ如キハ一種ノ自治制ニシテ恰モ  
我舊幕時代ニ於ケル市町村治ノ觀アリ  
各町村ニハ毎戶管轄地方廳ヨリ歳ニ門牌ヲ給與シテ其家  
長ノ姓名生業及ヒ男女ノ數等ヲ記入セシム戶口ノ増減ア  
レバ其時々更ニ門牌ヲ給シテ之ヲ登記セシム十戶ヲ以テ

牌トナシテ牌長ヲ置キ十牌ヲ以テ甲トナシテ甲長ヲ置キ  
 十甲ヲ以テ保トナシテ保長ヲ置ク此甲保長ハ士民ノ誠實  
 ニシテ學術アリテ身分確實ナルモノヲ公舉ス一年更代ノ  
 制ナリ又牌長ヲ十長ト呼ビ甲長ヲ百長ト稱ス而シテ之ヲ  
 總ブルニ保甲分局アリ佐貳官ヲ以テ局長トナス此各分局  
 ヲ總管スルニ保甲總局アリ道臺ヲ以テ其長トナス此保甲  
 總局ハ一省内一局トス  
 保甲分局ノ掌管スル所ハ賭博姦淫拐帶等ノ諸犯罪私ニ鑄  
 錢ヲナスモノ公費ヲ銷耗スルモノ私鹽ヲ販賣スルモノ劇  
 藥ヲ販賣スルモノ或ハ異様ノ風俗ヲナシテ錢ヲ歛メ人衆  
 ヲ集ムルモノ形跡詭秘ニシテ動作ノ疑フベキモノ等ハ皆  
 甲内ノ專司ヲシテ嚴密ニ稽査セシム又人民ニシテ官吏ノ

爲メニ誣執セラレタルモノアル時ハ保甲長ハ管轄官長ニ  
 之ヲ辨明スルコトヲ得ルノ規定ナリ  
 各村落ニ於テ若シ來歷明ナラズ形跡疑フベキモノアレバ  
 直ニ保甲長ハ之ヲ實査報明セザルベカラズ又若シ犯人ニ  
 付キ其ノ保釋ヲナサント欲スル場合ハ保甲長ヲシテ連名  
 互保セシム若シ受保者ニシテ舊惡ノ發露スルカ或ハ罪犯  
 ヲ冒ス如キノコトアレハ保甲長ハ律ニ照シテ連坐セラレ  
 以上ハ保甲制度ノ概要ナリ其律文正確ナリト雖病魔ノ深  
 クモ膏肓ニ入りタルノ清國今日ノ現狀ナレバ保甲制度ノ  
 上又幾多ノ弊竇百出セルハ識者ノ夙ニ知ル所ナリ革新ノ  
 舉豈容易ナランヤ

第七章 官吏

從來清政府官吏登用ノ法タルヤ啻ニ有爲ノ人物ヲ舉グル  
コト能ハザルノミナラズ益々俗吏腐儒ヲ採用シテ政海ノ  
腐敗ヲ重ネシノミ此法タルヤ清朝ノ之ヲ創設シタルノ精  
神ニ溯リテ穿索セバ之レ亦人民ヲ文弱姑息ニ導クノ政策  
ヨリ出ヅル所ノモノタラズンバアラザルナリ即チ民間有  
爲ノ士ノ悲憤慷慨ノ餘結黨反亂ヲ企ンコトヲ慮リ豫メ之  
ヲ防グノ方策ヨリ出テタルモノナレバナリ彼ノ乾隆康熙  
帝ノ如キ大ニ此ニ見ル所アリシカバ民間有爲ノ士ノ事ヲ  
企テントスルガ如キ恐アル輩ヲ集メテ之ヲ都門ニ招集シ  
沈魚羞月ノ佳人ヲ與ヘ金殿玉樓ヲ構ヘ以テ芳醇佳肴ニ醉  
飽セシメ加之毎月一回必ズ盛燕ヲ宮中ニ張リテ之ヲ饗シ  
百方有爲ノ士氣ヲシテ萎靡沮喪セシメンコトヲ計リ一面

ヨリシテハ此輩ニ課スルニ書籍ノ編輯ヲ以テシタリ彼ノ  
浩漭ナル圖書集成佩文韻府康熙字典及ヒ其他ノ大部ノ書  
籍ハ皆當時ニ編成セラレタルモノナリ遂ニ此等有爲ノ青  
年ハ清帝ノ計策ニ漏レズ一網ニ打シ去ラレ朝ニ在テハ文  
事ヲ談シ家ニ歸レバ美人ノ迎フルアリテ人間畢世ノ樂土  
トシテ昏々トシテ朽亡ニ傾キ民間一ノ達識者ヲキニ至レ  
リ此等ノ政策ハ千變万化陰トナリ陽トナリテ現出シ籠絡  
トナリ壓制トナリテ今日ニ繼續シ就中官吏登用法ノ如キ  
此主意ヨリ出テタルモノニ外ナラザルナリ  
其試験法タルヤ文字章句ヲ解シ詩文ニ巧ミナルモノヲ以  
テ最トナシ其抱持スル所ノ意見或ハ經世ノ策論等ニ至テ  
ハ全ク問フ所ニアラザルナリ此故ニ全國幾十萬ノ青年ハ

此試驗ニ及第セント欲シ制義ノ訓詁八肢ノ文法ヲ講ク試  
業ノ席ニ於テ四書朱註一點ノ誤リナカラシムコトヲ欲シ鮮  
麗巧妙ナル對句ヲ得閑雅流暢ナル詩文ヲ作り以テ優等生  
タラシムコトヲ願ヒ畢生ノ能力ヲ以テ死學無益ノ業ニ費シ  
汲々トシテ精通卓識ノ見ヲ養フコトヲカメザルヲ以テ經  
世經國ノ大計ニ至テハ夢想ダモ講ズルモノナキナリ  
噫人民ヲ愚ニスルノ政策ヲ取り以テ自家ノ安全ヲ保タシ  
トシタル祖宗ノ遺法ハ却テ自家ヲ毒スルノ具トナレリ之  
レ宛モ先祖ガ敵ヲ防クニ遺セル乃劔ヲ以テ自殺シツ、ア  
ルモノ、如シ此ノ害毒タル當今ニ當時ノ人士ニ止マラズ延  
テ將來幾多有爲ノ青年ヲシテ機械的ノ腐儒ト化シ終ラシ  
メントス豈又タ危カラズヤ識者云ヘルアリ

「八股ノ害ハ秦皇焚書ヨリモ甚シク而モ此法ノ天下人才  
ヲ敗壞スルコト咸陽ノ坑儒ヨリモ慘烈ナリト蓋シ之カ  
弊害タルヲ看破スルノ俊士ナキニアラズト雖慣習ノ久  
シキ祖宗ノ遺法ハ如何トモスルコト能ハザルナリ」  
雖然時勢ノ逼迫ハ驅テ遂ニ清帝ヲシテ科擧法革新ノ急務  
ナルヲ知ラシメ八股文試業廢止ノ上諭ヲ頒布セシムルニ  
至レリ即チ清曆五月五日ノ上諭ニ詳密ナル勅命ヲ下サレ  
タリ此ヨリ先キ在野ノ舉人連署シテ科擧法改正ノ建議ヲ  
ナス其建議書中ノ一節ニ云ヘルアリ「夫レ科擧ノ法ハ嘗ニ  
我士大夫ヲ愚ニシ以テ無用ノ士タラシムルノミニアラズ  
シテ而モ又其農工商兵及ヒ一般婦女子ヲモ併セテ皆之ヲ  
愚ニシ之ヲ棄ツルモノナリ豈謬惡ノ甚シキモノニアラズ

ヤ抑モ國ヲ富サント欲セハ必ズ先ヅ農工商ヲ智ニセザル  
 ベカラズ兵ヲ強セント欲セハ必ズ先ヅ其兵ヲ智ニセサル  
 ベカラズ看ヨ泰西列國ノ民ハ六七歳ニシテ必ズ皆小學ニ  
 入り字ヲ知リ算ヲ識リ粗ボ天文地理ノ大意ヲ解ス之ニ反  
 シテ吾中國ノ童生ハ將來應ニ吾農商工兵及ビ婦女ノ師タ  
 ルベキ筈ナリト雖而モ其實少シモ專門ノ科學ヲ知ラズ故  
 ニ農ハ殖産種藝ノ學術大意ヲ知ルコト能ハズ工ハ製造ノ  
 大義ヲ知ラズ商ハ世界生産貿易ノ大要ヲ解セズ兵ハ測算  
 繪圖ノ要ヲ識ラズ婦女ハ以テ其夫ヲ助ク其兒子ヲ訓育ス  
 ル所以ヲ知ラズ之レ我皇上四億萬有餘ノ生民ヲ撫育シツ  
 、而モ之ヲ無用ノ地ニ棄テ其兵ハ敵ヲ防グコト能ハズ其  
 農工商ハ以テ國ヲ裕カニスルコト能ハザル所以ニアラズ

シテ何ゾヤ豈痛ムベキニアラズヤ今夫レ科擧ノ法タル嘗  
 ニ其民ヲ愚ニスルノミナラシヤ而モ復タ將サニ王公ヲ愚  
 ニセントス皇上天稟聖明ニアラザルヨリハ師學ニ假ラザ  
 ル能ハズ近支王公皆上師房ノ師傅ヲ師トス而モ此師傅ナ  
 ルモノ其人皆八股ノ學ヨリ出テ、古今中外ノ故ニ通ゼズ  
 政治専門ノ業ニ達セズンバ近支王公ハ其レ將タ何ニヨリ  
 テカ其學識ヲ開發シ以テ議政ノ地ヲナサン近支王公ヲシ  
 テ不智不明ニ陥ラシムルモノハ此八股科擧法ニアラズシ  
 テ何ゾヤ云々此等ノ奏書ハ遂ニ其效ヲ奏シ前段八股法廢  
 止ノ擧アルニ至レリ此科擧法改新ハ大ニ今後ノ清國政事  
 上ニ變動ヲ與フベキナリ  
 支那人ハ何カ爲メニ官吏ニ戀々タルカ是レ他ナシ萬事ニ



比シテ官吏ホト氣樂ニ金錢ヲ利スルモノアラザレバナリ  
俚言ニ「三年ノ知府十萬雪花銀」ト云ヘルアリ又以テ其收入  
ノ大ナルヲ知ルベシ然レドモ實際ヲ觀察スルトキハ之レ  
未タ多額トナスニ足ラザルナリ此等ノ官吏何ニヨリテ此  
ノ如ク莫大ノ收益アルカ他ナシ賄賂ヲ貪リ民稅ヲ私スレ  
バナリ彼ノ湖江省漢口ノ如キ初メハ蘆葦ノ茂生セル荒涼  
タル百七十二萬八千餘坪ノ曠漠地ニシテ當時ニアリテハ  
僅ニ一年二百兩ノ蘆稅ヲ上納シ來リタルニ過キサリシカ  
今日ニ至リテハ億萬ノ財產ヲ有スル大買豪商軒ヲ連テ支  
那中央部ノ一大市邑トナレリ從テ地價ハ昂騰シ今日納ム  
ル所ノ地稅ハ一坪二均二兩以上ニ達スルモ中央政府ノ收  
入スル所ハ同ク以前ノ二百兩ニシテ其他幾千ノ收入ハ中

間官吏ノ手中ニ歸スル所トナルナリ之ニ依テ之ヲ見レバ  
萬金ヲ擲テ官吏株ヲ買フモノアルモ兩三年ノ後ニ至リテ  
ハ數十倍ノ純益ヲ見ルハ敢テ怪ムニ足ラザル所ナリ

第八章 農業

農制 農產物

支那歷代ノ政策タル農ヲ尙ヒ士ヲ重シ商工業ニ至テハ之  
ヲ輕視シテ顧ミザルノ觀アリシナリ而シテ清朝創業ノ際  
ニ在リテハ勸農ノ道能ク整理シ庶役甚タ簡ニシテ賦稅亦  
タ甚タ輕ク農民其業ニ樂ミシト雖中世以來朝政ノ振ハザ  
ルト共ニ賦役モ亦タ極メテ煩重ニ赴キ地方官吏ノ專横ナ  
ル苛求貪歛飽クコトヲ知ラズ其權利ハ爲メニ枉屈セラレ  
テ訴フルニ處ナク極メテ悲境ニ沈淪セシナリ殊ニ回匪ノ

擾亂ヨリ毛賊ノ變亂ニ及ビ十八省中其煩累餘毒ヲ蒙ラザルノ地ナク田土ハ爲ニ蹂躪セラレ家屋ハ其破壊スルトコロトナリ庶民其居ニ安セザルモノ二十餘年ノ久シキニ涉リ加ヘテ時勢ノ變動ヨリ海外通商ノ機ヲ開キ其交通ノ結果トシテ商勢ノ激進ヲ來シ商業上ノ趨勢極テ繁忙ヲ見ルニ至リシヨリシテ一般人民ヲシテ商利ノ輕捷ナルヲ思ハシムルニ至リ近代困弊ニ陥リツ、アリタルノ農民ヲシテ此時ヨリシテ其方向ヲ一轉シテ悉ク商事ノ途ニ志ヲ向ハシムルニ至リ其地方所在ノ豪富モ其資産ヲ商界ノ事業ニ投マ自然ニ農事ヲ放任スルニ至リタルヨリシテ遂ニ今日農業ノ不振ヲ來セルモノナラズンバアラザルナリ支那内地ヲ旅行セルモノハ一目シテ知悉スル所ナラン彼ノ茫々タ

ル數万頃ノ沃田良野之ヲ棄テ、願ミズ官又之ヲ不問ニ措クノ跡アルヲ見ルハ心アルモノ、遺憾トスル所ナリ然レドモ省ニヨリテハ耕耨ノ道能ク整ヒ其改良振作ニ勤メ殊ニ南部地方ノ如キハ水運ノ便アルガ爲メニ此ヲ利用シテ能ク其力ヲ盡シタルノ地方ナキニアラズ只其農耕ノ法極メテ幼稚ニシテ其勞ノ大ナル割合ニ其効果ヲ修ムルコト能ハザルナリ農產品中東西ニ輸出シテ巨大ノ額ヲ占ムルモノハ茶糸及ヒ棉ニシテ清國財政上ノ大宗トナリタルナリ要スルニ全國中大農ト稱スルモノハ千項以上ノ土地ヲ所有シ鄉閭ニ盤据スルモノ少ナカラズ其餘ハ多ク小農ノミニシテ近年ニ至リテハ政府ノ苛求極メテ厚ク稅源悉ク農

民ヲ本トスルモノナルヲ以テ其負擔ハ益々重ク之ニ加フ  
 ルニ厘金局ノ設置ハ又此等農産品ニ大ナル影響ヲ及ボシ  
 物價ハ日ニ益々騰貴シ小民ノ困難一層ヲ加フルノ現狀ナ  
 レハ縱令農産物ニ富ミタル清國民モ刻下ノ形勢ハ其實力  
 ノ上ニ於テ大ニ困弊ニ陥ルモノアリトス  
 今其農産物中重要ナルモノ數種ヲ摘記スベシ  
 生糸、産地ハ江蘇、浙江、廣東、安徽、湖南、湖北、河南、四川ノ各省  
 トシ山東直隸ニモ多少ノ産出アリ元來江蘇浙江ノ二省ハ  
 地味殊ニ肥沃ナルヲ以テ桑葉ノ大サ直徑殆ト一尺ニ及ブ  
 モノアリ養蠶ノ法ハ舊套ヲ固守スト雖モ桑葉ノ良好ナル  
 ヲ以テ繭質甚タ美ナリト云フ製糸ノ法又不完全ニシテ輸  
 出品トシテハ歐米ノ市場廉價ヲ博サザルモ其自國ニ於テ

製出スル所ノ綾羅錦繡吾人ノ耳目ヲ新ニスルモノアリ慧  
 眼ナル米歐人ハ此ニ着意シ遂ニ近年上海ニ製糸場ヲ設置  
 セルニ至レリ蓋シ爾來歐米市場ニ於テ我生糸ノ一大勁敵  
 タルベキモノナリ  
 茶、綠茶、紅茶ノ二種アリ雲南、四川、湖南、湖北、江西、安徽、浙江、  
 福建ヲ以テ重ナル産地トス而シテ綠茶ノ重ナルモノハ浙  
 江省ノ龍井茶、四川省ノ毛尖茶、安徽省ノ珠蘭茶等ニシテ紅  
 茶ノ重ナルモノハ福建省ノ烏龍茶ヲ以テ第一トナシ江蘇  
 ノ六安茶、雲南ノ普洱茶、安徽ノ家園茶等之ニ次クノ佳品ト  
 ス磚茶ハ露國人等漢口ニ一大製造場ヲ興シテ之レカ製作  
 ニ從事セリ何レモ外國輸出品ニシテ支那富源ノ一大宗タ  
 リ

米、重ナル産出地ハ湖南、湖北、江西、江蘇、安徽、福建、浙江、廣西ノ各省ニシテ年々北京ニ漕運スルモノ四百萬石ニ下ラズト云フ而シテ各省共産出地ノ狀況ニヨリ互ニ其省内ノ不足ヲ補濟ス即チ湖南ノ餘糧ハ湖北ヲ補ヒ浙江ノ餘糧ハ福建ノ不足ヲ補フガ如シ而シテ法律トシテ米穀ノ輸出ハ嚴禁セリ之レ國內ノ需要ニ不足ヲ告グルヲ以テナリ現今我國ニ輸入スル南京米ト稱スルモノハ全ク支那産ニアラズシテ東京、安南地方ノ産出ニ係レルモノナレドモ清人ノ輸入セルヨリシテ斯ル名稱ヲ得タルモノナルベシ實際清國産米ハ其味南京米ト稱スルモノニ比シテ遙ニ數等ノ上ニアリ殆ト我内地産ト格別ノ逕庭スルトユロナキ程ナリ  
棉、江蘇、浙江、湖北、四川ノ四省ヨリ産出スルモノ尤モ多シ

何レモ各地方へ輸出ス其餘各省共多少産出スルモノアレドモ皆自用ニ充タスニ過ギズ品質ノ良好ナルモノハ江蘇産ヲ第一トシ湖北産之ニ次グ上海ニ於テ製スル所ノ通州ト命名セル棉花ハ古來ヨリ江蘇地方ニ於テ産出セルモノニシテ有名ナル種目ノ一ナリ  
麥、多クハ北部ニ産出シ直隸、山西、陝西、甘肅ノ各省及ヒ東三省ノ地方ヲ重ナル産出地トス而シテ其多數ハ小麥ヲ培殖ス尤大麥ヲ植エルノ地モアレドモ稀少ナリ何レモ饅頭、點心、麵包及ヒ細麵等ニ製シテ日用ノ食糧トナス  
高粱、一ニ包米ト名ク黍ニ似テ其粒大ナリ、黒、白、赤、黃等ノ各種アリ北部旱燥地ニ於テ生産ス滿州ノ曠野ハ悉ク此種類ノ植付ニ係レリ農家自ラ酒ヲ釀シ糕ヲ作リ粥ヲ煮ル等

其需要ハ尤モ大ナリ  
 豆、黃豆、綠豆、豌豆、蠶豆、赤豆ノ五種トス何レモ南部地方ハ  
 多額ノ産出ナク北部ノ特有産ト云フベキ程ナリ糧食トナ  
 シ或ハ粉條ニ製シ餡ニ造リ蜜漬トナス等其用法一ナラズ  
 其油及粕ハ輸出品ノ大宗トナレリ  
 要スルニ支那南部ハ人民多ク加フルニ地ノ利ヲ得タルヲ  
 以テ能ク開拓耕耨シテ寸壤ヲ殘サズ之ニ反シテ北部ニ至  
 テハ農民ノ性質怠惰ニシテ耕耨又概ネ牛驢ノ類ヲ用テ勞  
 働チ省キ且ツ地廣ク人少キヲ以テ自ラ荒蕪ニ流ル地味氣  
 候ノ差異ニヨルト雖又民生ノ發達如何ニ關スルコト大ナ  
 モノアルナリ

第九章 工業

鐵産 製造所

清朝ノ初メニ當リテハ新事業ノ計畫ヨリシテ民心ヲ害セ  
 ノコトヲ恐レ舊體守株ノ政略ヲ取り明朝以來ノ舊習ニ任  
 セ極メテ放任主義ヲ用ヒ來リシタメ愈々其萎靡不振ノ境  
 遇ニ沈ミタリ然レドモ五十年來海外ト交通ノ道開ケタル  
 ヨリシテ時勢ノ氣運ニ促サレ漸ク其方向ヲ一轉スルニ至  
 リシト雖僅ニ造船所製鐵所兵機廠織布局等ノ設立ヲ見ル  
 ニ至リシノミニシテ何レモ政府ノ事業タルニ止リ其民業  
 ニ屬スルモノ、如キハ寥々晨星ノ感ヲ免レズ近來ニ至リ  
 張之洞氏ノ武昌ニ創設セル紡績局ノ如キ製鐵所ノ如キ少  
 シク見ルベキモノアリト雖蓋シ又支那人得意ノ姑息主義  
 ノ事業ニ屬スルモノタルヲ信ズルナリ前年重慶ノ開港ニ

當リ民船ニ雇ハレ綱曳ヲ以テ業トシ生活ノ道ヲ立テ居ル  
舟夫及ヒ勞働者ノ生業ノ途ヲ奪ハシ爲ニ無食ノ徒ヲ生シ  
擾亂ヲ起スニ至ランコトヲ恐レ遂ニ重慶宜昌間ニ汽船ノ  
通航ヲ禁シタルガ如キ又彼ノ劉銘傳ノ如キ其曾テ臺灣ニ  
巡撫ノ任ヲ奉ズルニ際シテヤ銳意熱心シテ文明ノ利器ヲ  
輸入シ電信ヲ通シ鐵道ヲ布キ其他種々ノ新事業ヲ企畫シ  
タルモ其功業ノ漸ク社會ニ明著ナルニ從ヒ讒言トナリ詭  
告トナリ彈劾トナリ遂ニ其職ニ安ズルコト能ハズ功業半  
ニシテ遂ニ冠ヲ掛クルニ至レリ然レドモ支那種族ノ特性  
タル其初メ容易ニ入り難シト雖一タビ之ニ感染スルトキ  
ハ一瀉千里ノ勢又止ムベカラザルモノアルヲ見ル此種族  
ニシテ殖産事業ノ富國強兵ノ基タルヲ知ラザルモノアラ

ンヤ

揚子江ノ南北ハ頗ル鐵産ニ富ミ湖北省ニ在テハ大冶ノ鐵  
鑛及ヒ炭鑛アリ興山ノ銀鑛アリ湖南ニハ衡州ノ炭鑛資慶  
ノ鐵鑛アリ峽江ノ沿岸ニハ巴東ノ炭鑛唐家沱ノ鐵鑛アリ  
其採掘ノ方法極メテ不完全ナルニ拘ハラズ長江一帶ノ各  
地ニ需用スルニ餘リアリ其雲南貴州ニ於ル鐵産ハ蓋シ其  
産出料ラレサルモノアリ其鑛物學者ノ說ニ支那内地ハ鐵  
及ヒ石炭等ノ諸鑛物ニ富メルコト世界無比ナリト云ヘリ  
若シ文明ノ器機ヲ利用セバ將來清國輸出品中ノ一大宗ト  
ナルベクシテ兼テ諸種工業的事業ヲ勃興セシムル上ニ於  
テ偉大ノ功果ヲ修ムベキナリ  
鐵道敷設事業ノ如キモ有志者ノ從來ヨリ屢々建請スル所

ナリシモ或ハ地脈ヲ斷ツトナシ或ハ風水ニ害アルモノトシ或ハ小民ノ生業ヲ失ハシムルトナシ保守論者ノ沮止スル所トナリシナリ思フニ運輸交通ノ如何ハ其國文野ノ分ル、所ニシテ若シ夫レ天津ヨリ山海關ニ至ルノ鐵路ハ漸ク其工ヲ竣リ又彼ノ一大計畫トシテ内外人ノ注目厚キ北京ヨリ漢口ニ通スルノ中部橫斷線及ヒ漢口ヲ基點トシテ更ニ進テ廣東ニ至ルノ軌條能ク其計畫ヲ全フシ其規模ヲ誤ラザルニ於テハ支那本部ノ面目一新スルノ時タラザルベカラズ而レドモ其瘡痍ノ大ナル陸備ニ海防ニ幾多ノ方面ニ向テ全力ヲ注グベキノ途アルノミナラズ外債償却等財政上ニ大ナル困厄ヲ及スモノ一二ニシテ止マラズ爲ニ其伸ブベキモノ萎縮スルヲ免カレザルベシト雖低利ノ資

本ト勞力ノ安直トハ此國工業ノ上ニ於テ一大便益ヲ與フルコト言テ俟タズ况ンヤ其原料ハ取テ限リナキモノアルヲヤ須ク俗士ノ迂論ヲ排斥シ財源ノ充實ヲ期シ以テ陋見ヲ打破シテ着々其歩武ヲ進メズンバ諸種工業上ノ權利ハ悉ク歐米人ノ甘言好餌ニ欺カレ國富ハ擧テ彼等ノ掌中ニ籠蓋セラル、ニ至ランナリ

第十章 商業

綜説 締盟國 會館 公所

農本商末ノ政略ヨリシテ商家ハ常ニ四民ノ下層ニ居リ士ノ壓抑スル處トナリ從テ其發達モ見ル所ナカリシガ阿片戰爭ノ結果トシテ道光二十二年ノ南京條約ニ二千一百萬圓ノ償金ヲ支拂ヒ併セテ香港ノ一島ヲ割讓シ上海以下五

一〇四  
ク處ノ互市場ヲ開キ咸豐十年英佛ノ聯合軍ニ迫マラレ再  
ヒ天津條約ヲ締結シテ償金一千二百萬圓ヲ出シ天津以下  
七港ヲ開キ遂ニ海禁ヲ撤シテ今日二十有餘ノ開港場ヲ有  
スルニ至リ從來夷狄ト稱シ鬼子ト呼ビタル諸外國ト好ヲ  
修メ商ヲ通シ公使領事ヲ派遣スルニ至リ爾來駸々乎トシ  
テ商勢ノ發達日進月歩ノ有様トナリ今日ニ至リテハ各港  
ニ於ル貿易總額ハ實ニ五億萬餘ノ巨額ニ上レリ商勢ノ長  
足進步驚クベキモノアリ  
現在外國ト通商條約ヲ締結議定セル年月日ハ實ニ次ノ如  
シ

魯西亞國 康熙二十二年七月議定  
英吉利國 道光二十七年二月議定

總

論

瑞典國 全上  
那威國 全上  
北米合衆國 咸豐八年五月議定  
佛蘭西國 全上  
獨乙國 咸豐十一年七月議定  
噠嗎國 同治二年五月議定  
和蘭國 同治二年八月議定  
西班牙國 同治三年九月議定  
比耳義國 同治四年九月議定  
伊太利國 同治五年七月議定  
澳太利國 同治八年七月議定  
秘魯國 同治十三年五月議定



日本國 同治十年七月議定  
巴西國 光緒七年八月議定

清國今日ノ現狀各種ノ機關萎靡不振ノ時ニ當リ獨リ商事ノ發達隆盛ヲ見ルモノ抑モ亦以テキニアラザルナリ蓋シ其原因タル種々アルベシト雖支那人民ハ商業上ノ要素タル一種ノ特性ト加フルニ古來ヨリ同業者間實ニ牢乎トシテ侵スベカラザル團結力ノ存在スルモノアルニ由ラズンバアラザルナリ特性トハ何ゾヤ他ナシ金錢ヲ愛スルノ念深キト之レナリ實ニ彼等ノ腦底金錢ノ二字ヲ脱却スルト能ハザルヲ以テ常ニ此ノ思想ノ支配スル所トナリテ忍耐トナリ勤勉トナリ或ハ冒險的ノ事業ト化シ今日五州ノ地至ル所彼等ノ來往ヲ見ザルハナク世俗ノ毀譽ニ關セズ粗

衣粗食途ニ能ク幾萬海外ノ資貨ヲ荷フテ鄉里ニ歸ルモノ之レ實ニ商業上ノ特性ト云ハザルベカラス而シテ内ニ在リテハ團結力ノ鞏固ナル營業保護ノ目的ヨリシテ各地ニ同業組合ナルモノヲ設ケ嚴格ナル規約ヲ以テ之ヲ統轄シ苟モ此例規ニ違フモノアルトキハ再ヒ業務ヲ取ルコト能ハザルノ方法ヲ設ク加之甲地ノ組合ハ乙地ノ組合ト氣脈ヲ通シ違法者ヲ束縛スルノ制ヲ設ク其事務所ヲ公所ト稱ス各業必ズ一個ノ公所ヲ有ス而シテ又同鄉人一般ノ便益ヲ與ヘ且ツ其利益ヲ保護スルノ目的ヲ以テ此等同業組合ニ比シテ稍大ナル會議所ヲ各地方ニ設ク名クテ會館ト稱ス本邦ノ商業會議所ノ如キモノナリ然シテ此等ノ會館公所ノ諸制裁ヲ遵奉シテ自己ニ不利ナルヲ知ルモ同業一般

ノ爲メニ固ク其約ヲ守ルハ清人ノ性質ニ於テ尤モ怪ム所ナリトス雖然之レ一種ノ特性ナリ又此等團結ノ力ヲ利用シテ往々外商ヲシテ苦境ニ陥ラシメ其間ニ在リテ不義ノ利益ヲ貪ルコトアリト雖此等ノ慣習タル實ニ商業上ノ精神ヲ得タルモノト云フベキナリ而シテ此等ノ精神ヲ以テ常ニ海外諸國ト通商シ到ル處ニ妻妾ヲ取リテ子孫ヲ育シ晏然以テ永住ノ策ヲ畫シ加之連絡ヲ自國ノ各港ニ保チテ運輸金融交通ヲ便ニシ内外相應シ緩急度ヲ失セス漸ク將ニ海外各地ノ製産事業ニ迄侵入セントスルノ勢ナリ然リト雖清國內地ニ至テハ今尙ホ大小ノ金銀塊ヲ切斷シテ之ヲ使用シ其種類ノ多キ十餘種ニ至リ塊質ノ鑑定算定ノ方法等甚タ紛雜ヲ極メ又其度量衡ノ如キモ各地其制ヲ

異ニシ品類ノ多キ一百餘種ニ及ビ頗ル錯雜セリ加フルニ郵便銀行等ノ商業上ノ機關等ニ至テハ官制ノ規定セルモノナク只民間ノ信用ニ因テ成立セル者アルノミニシテ實ニ政府制定ノ商業機關タルモノハ一モ其實ノ存スルモノナク極テ不完全タルヲ免レザルナリ願テ清國ニ外國ヨリ輸入スル所ノ者ヲ見ルニ金巾、阿片ノ二種ヲ大宗トス而シテ阿片ノ輸入ヲ防グ爲メニハ内地ノ培植ヲ獎勵セシト雖毫モ輸入ニ影響ヲ及スノ所ナク又張之洞ノ創設ニ係ル武昌織布局ノ如キハ輸入金巾防遏ノ主意ニ外ナラザルナリ然ルニ年々輸出入ノ統計ハ必ズ輸入ノ輸出ニ超過スルモノアルヲ見ルハ全ク此金巾及ビ阿片ノ二種輸入ノ大ナルニ因リテナリ去レバ今試ニ輸入金巾

ノ價格ヲ輸入總額中ヨリ引キ去レバ其輸入額ハ輸出額ト  
同數トナルベシ又更ニ輸入阿片ヲ以テ輸入總額ヨリ減ゼ  
バ輸出額ハ遙ニ輸入額ニ超過スルヲ見ンナリ粒々辛苦ヨ  
リ得ル所ノ茶棉生糸ヲ以テ金巾及ビ不生産的ノ尤モ甚ダ  
シキ阿片トニ交換ス而モ其凶煙ノ猖獗ナル全國ノ元氣ヲ  
擧テ萬縷ノ煙霧ニ化シ去ラシメントス之ヲ概算スルニ凡  
ソ人口十分ノ一ハ吃煙者タルナリ滔々澎々トシテ其勢底  
止スル所ヲ知ラザルナリ  
又内部ノ有様ヲ詳悉スルニ清國商工業ニ至大ノ妨害ヲ與  
フルモノハ内地各所ニ設置シタル舊關及ビ厘金局ナリ獨  
乙ノ如キハ稅關ノ連合ヲナシテヨリ一層ノ進歩ヲ來シ從  
テ聯邦國一己一己ノ國利民福モ甚ダ増加セリト云フ實ニ

清國ノ命運ヲシテ短縮セシメタルモノハ此等ノ關門ナリ  
ト云ハザルベカラズ清廷具眼達識ノ士意ヲ專ラ此ニ注キ  
運輸交通ノ便ヲ謀リ諸種商業上ノ機關ヲ完成セシト今  
日ノ急務ナリトス  
今清國商民ノ自治ヨリ成レル機關即チ會館及ビ公所ノ性  
質ヲ詳記スベシ又以テ商業上ニ於ル特性如何ヲ察知スベ  
キナリ

會 館

抑モ會館ナルモノハ同鄉出身ノ官吏ガ相互ニ保護救援セ  
ンガ爲メ京都ニ於テ之ヲ創設シタルヲ以テ始トナス爾後  
商賈相結テ彼ノ官吏會館ニ擬シ商賈會館ヲ組織セシガ今  
日ニ至リテハ何レノ州縣ト雖各其會館ヲ有セザルモノナ

キガ如シ然レドモ其會館ノ目的ニ二種アリテ一ハ遠地ヨリ來往スルモノ、必ズ免ルベカラザル局部ノ僻見ニ對スルノ保護ニシテ他ノ一ハ該館仲間ノ間ニ起生スル所ノ不和爭論ヲ防止スルニアリ温州ノ寧波同鄉會館ノ例言ニ云ヘルアリ夫レ寧波ハ沿海ノ地方ナレバ住民ノ農夫トシテ本土ニ職業ヲ得ルコト能ハザルモノハ勢ヒ商業ノ爲メニ他ノ地方ニ移住セザルヲ得ズ今寧波人ノ温州ニ在ルモノハ孤立獨行ノ位置ニ立テリ山嶽河海之レカ隔絶ヲ爲シテ寧波ト相通ゼズ若シ温州人ノ爲メニ怨望セラレ其輕侮ト損害トヲ受クルトキハ吾儕ハ何ヲ以テ之レカ償贖ヲナスベキヤ願フニ商社ナルモノハ各其利己ノ爲メニ運動スルヲ以テ孤立獨立シテ商業場裡ニ運動セバ自然ノ結果トシ

テ損失ヲ招キ耻辱ヲ來サマルヲ得ズ之レ同鄉會館ヲ立テ共同ノ利益ヲ圖ルノ已ムヲ得ザル所以ナリト由是觀之同鄉會館ハ事情ノ必要ヨリ起生セシモノニシテ同鄉商賈ガ他ノ地方ニ在テ他商ノ抑壓ヲ防制シ以テ同鄉商人共同ノ利益ヲ保全スルニ尤モ有利有益ノ制タルヤ明白ナリトス又獨リ商業社會ノ利益ヲ圖ルニ止マラズ地方官吏ノ壓制ヲ防禦スルノ一具タリ寧波會館ノ記録ニ曰ク當世紀ノ初十年間ノ終ニ際シ隣接ノ各地方米作ノ饑饉アリ而シテ南方ノ浙江地方ニ於テハ食料夥多ナルヲ以テ寧波商人ハ帝國ノ何地ヨリスルヲ問ハズ米ノ輸出ヲ允可セラレタル上諭ヲ利用シ小舟ニ許スニ米ノ輸出業ヲ以テセリ然ルニ地方官ハ温州ニ於テ其上諭ノ實施ヲ拒絕スルヤ該商船ヲ捕

ヘテ商人ヲ縛セリ依テ寧波會館ハ該地方官ノ不法ヲ抗州  
 府廳ニ告訴セシモ其救正ヲ得ザルヲ以テ遂ニ北京政府ニ  
 上告シ爾後地方官ノ抑壓ヲ免ル、ヲ得タリト又以テ會館  
 ノ地方官ノ暴威ヲ防禦スルニ必要ナルヲ知ルナリ支那帝  
 國過半ノ市城ニ於テハ各州ノ會館ハ巍然トシテ雲際ニ聳  
 立シ市城ニ至ル者ヲシテ先ヅ目ヲ驚カシムルニ至レリ然  
 リ而シテ會館ノ種類其數亦多クシテ枚舉スルニ暇  
 アラズト雖茶業會館、生糸會館、銀行會館、阿片會館、藥材會館  
 及ヒ金屬會業ヲ始メトシテ其他諸種ノ會館アリ以テ支那  
 商業上ノ取引ハ概ネ皆此ニ依リテ行ハレザルハナシ  
 實ニ會館ハ支那商業上ノ一大機關ナリ然リト雖前キニ長  
 毛賊ノ亂起ルヤ支那帝國過半ノ地ハ毛賊ノ蹂躪スル所ト

ナリ商業ノ如キモ一時其影響ヲ蒙リ衰微ノ勢ヲ呈シ隨テ  
 會館ノ制モ亦一時廢絶ニ歸セシコトアリト雖國內既ニ平  
 和ニ復シ商業亦タ活潑ナルニ從ヒテ會館ノ制モ舊ニ復シ  
 且ツ改良進步ノ勢ヲ表ハシタリ蓋シ彼ノ南京條約以來清  
 國ノ外交漸ク繁ク通商ノ路益々頻繁トナリ從テ人情ノ傾  
 向ハ愈々不信不義ノ域ニ赴キタレバ從來ノ會館ヲ改良シ  
 テ時勢人情ニ適合セシメザルベカラス否ラザレハ前陳ノ  
 積弊ヲ矯正スルコト難シ此ニ於テカ能ク此等ノ點ニ注意  
 シ巧ニ會館ノ制ヲ利用シテ外國商人ノ抑壓ヲ防制シ以テ  
 內國商賈一般ノ利益ヲ保全スルニ至ル  
 會館ノ來歴及ヒ其緊要ナルコト此ノ如シ而シテ會館ノ組  
 織及ヒ其規約ノ如キハ繁雜複綜ナルベキモ實際然ラズ當

初ニ在リテハ之ヲ赤色ノ一片紙ニ印刷シテ會館ノ壁上ニ貼付セシカ漸ク商事ノ盛ナルニ及デハ冊子トナシテ頒布スルニ至レリ

會館ノ役員ハ總管理人一名及ビ委員數名ヨリ成リ委員ハ毎年之ヲ撰舉ス商業旺盛ノ土地ニ在テハ貨物ニ付キ分課トナシ委員ヲ設ク福建會館ニ於ル砂糖課材木課雜種課ノ如シ又幹事一二名ヲ置キ文學上ノ名譽ヲ有スルモノヲ撰任ス諸通信ヲ掌リ會館ノ利益ヲ管シ館員ノ受ケタル損害ニ對シテ救正ヲ請求シ其他會館一切ノ事項ヲ處辨スル等法律上會館ノ代表者トシテ官衙ヨリ認メラル、者ナリ又地方官ニ於テ會館ニ向ヒ公共ノ事業施濟及ビ其他臨時ノ事件ニ付捐金ヲ請求セラル、トキモ亦幹事ノ之ニ應答ス

ベキモノトス

會館ノ議員ハ大抵三十名ヲ限トス議事規則ノ如キ成文ナシト雖一議案アルトキハ必ズ定員ヲ待テ決議ヲ行フモノトス又一ノ簡單ナル規約アリ其條ニ曰ク會議ニ際シ議員ノ提案アルトキハ必ズ其提案セシ議員ハ之ガ説明ニ當ラザルベカラズ且又一旦決議ヲ經タルモノハ後ニ至リ再ヒ之ヲ討議スベカラズ此外無用ノ空談虛説ヲ防制スルガ爲メニ年少客氣ノ館員ハ集會ニ臨ミ發議討論ヲ許ササルノ制アリ

商業市場ノ建物中壯觀美麗ナルモノハ會館本部ヲ以テ最トナス即チ其會議所演劇場及高官并ニ試問ニ應ゼンガ爲ニ京都ニ赴ク所ノ學生ノ旅舎ニ充ツル所ナリ又會館ノ正

室ヲシテ壯嚴威容ヲ保タシメ、ソガ爲メ鍍金及彫刻及石工ノ諸美術等巧妙ヲ極ム  
 會館ノ資金ハ館員ヨリ其賣却シタル貨物ノ代價ニ付隨意ノ金高ヲ徵收シテ成立スルモノニシテ其賦金ノ割合ハ時ノ事情ニヨリ一定セズト雖大概賣上高ノ千分一ナリ而シテ毎月各商估ノ帳簿ヲ檢査ス時ニヨリテハ一種ノ貨物ニ對シテ較々重キ賦金ヲ徵收スル事アリ例へハ寧波會館ノ如キ藥商ニ對シテハ賣上高金一串文ニ付八文ヲ徵スト雖荳餅ノ賣上金千文ニ對シテ僅カニ二文ヲ課スルノミ畢竟賦金ノ方法ハ貨物ノ固有價格ヲ探レルヲ以テ高價ノ貨物ヲ商フモノハ抵價ノ貨物ヲ商フ者ニ比スレハ更ニ重キ賦金ヲ納ムルナリ若シ館員ニシテ賣上高ノ届出ニ付不實ノ

證據ヲ發見セルトキハ之ガ過代トシテ罰金ヲ徵收セララル、モノトス

總

會館ハ商業上ノ裁判廳ト稱スベキモノニシテ其所定セル規則ヲ強行セシムルノ權アリ蓋シ支那裁判所ニ於テモ會館ノ規約ヲ以テ法律上ノ効力アルモノト做セリ即チ館員相互ノ間ニ金錢上ノ爭論アルトキハ之ヲ館ノ集會ニ提出シ其仲裁ニ委スベシ若シ其事件ニシテ和解シ難キトキハ則チ之ヲ所屬ノ地方廳ニ告訴スルコトヲ得ルト雖其起訴人カ先ツ會館ノ仲裁ニ依頼スルコトヲナサズシテ直ニ地方廳ニ控告スルトキハ館員一同ノ排斥ヲ受クルノミナラズ將來會館ノ意見ヲ請フコトヲ得ベキ事件起ルト雖一切會館ハ之ヲ保護セザルベシ又此會館ノ調停仲裁ヲナスノ

論

權力ハ獨リ金錢上ニノミ關セズシテ一般館員ノ間ニ起生  
 スル所ノ事柄ニ及スモノトス館員ヨリ除名セラレタルモ  
 ノ又ハ他地方ノ館員ヨリ排除セラレタルモノ等ハ何レモ  
 一切交通ヲ禁マ若シ私通セルコトノ發覺セシトキハ一百  
 兩ノ過料金ヲ追徴スルノ制ナリ  
 空買賣ハ不法ノ所爲ナルヲ以テ館員ハ之ヲ爲スヲ禁ズ若  
 シ違フ者アレバ之ヲ地方廳ニ告訴シテ求刑ス清國ノ法律  
 ニハ空買賣ヲ禁ズルノ明文ナシト雖行市ヲ專有スルヲ罰  
 スルノ條則アリ即チ相場ヲ動搖セシメテ財政ノ紊亂ヲ來  
 サシメタル投機者ヲ處罰スルノ主意ナリ會館ニ於テ此空  
 買賣ヲ禁止シタルハ至極正當ノ所爲ナリトス

公所

公所ハ同業組合トモ稱スベキ者ニシテ小商及ヒ工匠ヨリ  
 組織セラル、所ニシテ其組織ノ如キ種々アリ魚商公所、鍛  
 冶公所、大工公所、線匠工所、絹織商公所、磨匠公所、郵信公所、割  
 匠公所等一二ニシテ止マラス而シテ其組合ノ例言ニ曰フ  
 「凡ソ商取引ニ於テ賣人買人共ニ利益ヲ享クシト欲セバ正  
 實ト信誠トヲ以テ最乗ノ必訣トスバシト」向レモ組合毎ニ  
 其規約ヲ確定シ以テ各商間ノ利益ヲ企圖スルニアリ然シ  
 テ其主旨條例等ハ會館ト大同小異ナリトス

第一編 庶制

第一章 風俗

綜説、飲食、衣服、家屋、婚儀、葬儀、旅店、



茶館、烟館、酒樓、戲場、締足、年暮、年始

清國各省ノ人情風俗ヲ略述セシニ直隸省ハ輦轂ノ地タルヲ以テ政事上ノ中心トナリ從テ各種人物ノ來往頻繁ナルモ人民ハ却テ敦朴ニシテ文學ニ耽ルモノ多ク進取ノ氣力ニ乏シ山東山西ハ商業上ノ才機ニ富ミ且ツ巨多ノ資本ヲ有スルモノ多ク各省ニ盤据セル豪商銀行家質商等ハ此二省ノ占有スル所ナリ江蘇浙江ノ地方ハ文學盛ニ行ハレ從テ華美ヲ好ミ自ラ奢侈ニ流ル、ノ風アリ蘇州府江寧府抗州府等ニ旅行セルモノ、知悉スル所ナリ安徽江西ハ稍素朴ノ風アレドモ狡獪ノ氣往々敢爲ノ氣象ヲ有セリ湖南湖北ハ最モ勇敢ニシテ頑固黨ノ集合地タリト稱ス其外國人ヲ見ル殆ト仇敵ノ如ク教會堂ヲ燒毀シ宣教師ヲ暗殺シ電

柱ヲ燒キ新機械ヲ見ルコト蛇蝎ノ如ク守舊黨ノ根據地トス河南四川ノ人民ハ古來ヨリ他省ト俗習ヲ異ニシ極テ温和ニシテ男女ノ間亦タ親密ニシテ隔ツル所ナシ然レドモ事ニ當リテ勇猛ナルモノ多シ廣東福建ノ二省ハ古ク外國ト交通セシヲ以テ極メテ狡獪ニシテ事ニ當ルヤ敏捷又尤モ冒險ノ性ニ富ム能ク外交上ノ智識ヲ蓄フルヲ以テ通商上ノ利權ハ此二省ノ占有スル所トナル海外各國ニ出稼シ若クハ各港ニ開舖シテ通商ニ從事スルモノハ多ハ此種ノ人民ニ係ル雲南貴州ハ未ダ世ノ風潮ヲ知ラズ然レドモ狡猾ト遊惰ノ氣風ヲ有ス衣服、清國現時ノ服制ハ滿州ノ俗ニ從ヒタルモノナリ即チ滿朝君臨ノ當時一律ニ制定施行セシメタルモノナリ其

衣服ハ貴賤ニヨリテ精粗ノ別アレドモ其式様ハ一定シテ我國ノ如ク區々ナルコトナシ上等ノ人ハ緞子、襦子、綾、繭紬、縮緬等ノ類ニシテ浙江、江蘇ノ産ヲ用ヒ山東、河南、四川ノ産ハ粗ナリトシテ用非ズ中等ノ者ハ其粗ナル緞子、綾及ヒ絹ヲ用ヒ半ハ綿布ヲ用ヒ下等ハ總テ綿布ニシテ本國産ヲ用ヒシガ價ノ廉ナルヲ以テ近來ハ舶來ノ金巾ヲ用ユルモノ多シ夏ハ一般ニ麻布ヲ用ヒ北地ノ人民ハ冬季ハ概ネ裘衣ヲ着ス裘衣ニハ種々ノ制限アリテ猥リニ着スルコト能ハズ即チ貂ノ裘衣ハ一二品ノ高官ニ非レバ用ユルコトヲ得ズ三品官ハ領ニノミ之ヲ許スガ如シ豹、獺、黑猫、銀鼠ノ皮ハ上等品ニシテ長毛ノ羊皮之ニ次ク中産以上ノ人ハ老羊ノ皮ヲ用ヒ舶來ノ羅紗類ヲ衣服ニ用ユルハ嚴禁ナリ婦女ノ

服裝ハ概シテ華美ヲ好ミ其盛裝ニ至テハ繡飾ニ巧ヲ費シ一領數百金ニ値スルアリ中等ハ緞子、綾等ノ色彩鮮麗ナルモノヲ撰ブ下等ハ綿布ノミ通常一般ノ服色ハ青藍紺トス飲食、支那人ノ食物ハ一般ニ鳥獸ノ肉ヲ主トシ總テ油濃ヲ好ム豚肉ハ其常食ト云フモ可ナリ淡泊ヲ主トスル汁物ノ中ニモ必ズ豚油ヲ調和スルコト本邦ニテ饜節ヲ用ユルニ同シ中等以上ノ食事ニシテ一汁一菜ナト云フ粗末ナル膳部ヲ用ユルコトナシ多キハ八種少キモ五六種ヲ下ラズ宴會等ノ盛饌ニ至テハ所謂山海ノ珍味ヲ排列シ數十種ニ及ブモノアリ一般ノ食事ハ一日二回ニシテ午前十時午後四時ノ二食トス朝食ハ肉類多ク晩食ハ少シク淡泊ナルヲ常トス米ハ四五年ヲ經タル古米ヲ貴ブ又食事ノ時ハ概ネ

酒ヲ用ニ大抵一ヶ月ニ二回日ヲ期シテ種々ノ馳走ヲ作り、  
 家内一同打寄リテ飲食ス商家ノ如キハ毎月福神ヲ祭ルガ  
 爲メニ會食ヲナス此外毎日朝八時晝後二時ニ点心ト稱シ  
 テ饅頭ノ類ヲ食シ茶ヲ呑ム以上ハ中等以上ノ生計ヲ云ヒ  
 シモノニシテ下等ノ賤民ハ雲泥ノ相違ニシテ一飯一菜ニ  
 過キズ又雜穀ヲ以テ製シタル饅頭ヲ常食トスルモノアリ  
 又下等農民ニ至テハ高粱豆粟等ノ雜穀ヲ以テ常食トスル  
 モノアリ各地共高粱ヨリ製シタル燒酎ヲ飲食ス街頭ノ人  
 力車夫ノ如キハ定リタル常食ナク一日ハ薯ヲ食ヒ一日ハ  
 饅頭ヲ食ヒ又時トシテハ大道賣ノ豆腐ヲ食フテ餓ヲ充ス  
 モノアリ

家屋、上等社會ハ煉瓦ヲ疊ミテ四壁トナシ中等ハ板ヲ用

ヒ下等ハ蘆又ハ藁ニテ下地ヲ作りテ之ニ泥ヲ塗ル屋根モ  
 亦然リ海濱河岸ノ賤民ハ南北トモ概ネ舟乗ト漁業トヲ以  
 テ生計ヲナスガ故ニ家族一同舟ヲ以テ家トナシ其中ニ生  
 涯ヲ送ルモノ多ク陸上ニ家ヲ有スルハ稀ナリ家屋ノ間取  
 リハ上等ハ大抵三間連接シテ左右ニ一間ツマノ小廂アリ  
 凹字形ヲナス中間ハ客室ニシテ其左右ハ書齋等ニ用ユ小  
 廂ハ家族ノ居室庖厨トス上等社會ハ二階建ニテ棟數モ多  
 ク中等以下ハ平屋ニテ間數モ隨テ少シ下等ニ至テハ寢室  
 食堂客間共ニ一間限リノ者アリ北部ノ寒地ニアリテハ大  
 抵床下ノ一方ニ窓ヲ開ケテ竈ノ如クニナシ火ヲ焚キテ其  
 烟ト煖氣トヲ床下一圓ニ通ズル様ニナシ座敷ヲ煖メ寒氣  
 ヲ防グノ裝置ナリ一般座敷ノ中央ニハ低キ机ヲ据へ前後

左右ニ椅子ヲ置キ主客ノ席ヲ分ツ四壁ニハ書畫ノ幅物ヲ懸ク側ノ机上ニハ茶器ノ類ヲ排列ス貧富ニ依テ其器什ニ精粗ノ異ナルアリト雖之ヲ按排シテ座敷ヲ修飾スルノ點ハ一般ノ習俗ナリ其上等社會ニ在リテハ椅子卓子書架及ヒ寢臺ヲ紫檀黒檀香樟等ノ佳木ヲ以テ製シ之ニ精巧美麗ナル彫刻ヲ施スアリ下等社會ニ在リテモ常ニ椅子卓子寢臺等ハ用ユト雖雜木又ハ竹籐ニテ製シタルモノヲ用ヒ其賤民ノ如キハ豚小屋ノ様ナル家ニ住シ地上ニ起臥シテ夜具ナキモノ少ナカラズ港口ニ群集セル挑夫ノ如キハ材木其他貨物ノ上ニ横臥シテ徹宵スルモノヲ常トス婚姻、婚儀ハ支那人ノ尤モ貴重スル所ニシテ必ズ慣例規矩ニ基キタル定式ヲ經由セザルベカラズ彼ノ所謂自由結

婚ト稱スル所ノ者ノ如キハ此國人ノ夢想ダモ及バザル所ナリ必ズ一定ノ媒介者アリテ雙方父母ノ間ニ奔走シ其定約スル又父母ノ意ニ適スルヲ度トシ必ズ其本人ノ意思ヲ問フコトナシ又大抵兩家同一ノ家格ヲ撰ブ又雙方胎兒中ニ嫁娶ヲ約スルモノアリ婚嫁ノ式終リテ後三四日ヲ經テ新婦ハ其生家ニ歸リ宿泊數日ニシテ夫ノ家ニ歸リ爾來全ク其夫家ニ屬スル者ナリ而シテ其夫及ヒ養父母ニ仕フル柔順ナルヲ以テ婦ノ務トス若シ夫死スル時ハ殉死シ其疾病アルトキハ自己ノ生肉ヲ裂キテ藥鑿ニ烹ルノ惡風アリ然レドモ此等ノ惡風ハ政府却テ之ヲ獎勵スルアリ又門閭ニ旌表スル等ノ事アリテ御黨之ヲ稱揚ス其命名ノ婦ニシテ婚嫁セザル以前ニ其夫ノ死スル時ハ一生獨身ニテ暮ス

ヲ常トス若シ其實父母之レヲシテ再嫁セシメント欲スル  
トキハ夫ノ許可ヲ得ザルベカラズ然レドモ一般虛禮ニ流  
レ今日ニ至テハ風俗大ニ頹敗シ妻妾十數人ヲ蓄ヒテ富豪  
ヲ誇ルモノアリ或ハ婦ヲ取ル金錢ヲ以テ賣買スルモノア  
リ其眉目ノ清醜ニヨリテ價ノ高下ヲ問フ等ノ弊アリ只其  
婚儀ヲ行フニ當リテハ費用ノ多キヲ以テ外觀ヲ飾リ中外  
ニ誇ルノ風習アルハ誠ニ惜ムベキナリ  
葬儀、墳墓ハ山ニ設ケ若クハ田畑ノ間ニ設クルアリ棺廊  
ハ埋ムルニアラズシテ上ヨリ土ニテ蔽フナリ支那内地到  
ル處穹窿狀ヲナシタルモノ、田畑ノ間ニ隆起セルハ墳墓  
ナリト知ルベシ豪富ノ家ニテハ周圍ニ牆壁土壘ヲ廻ラシ  
門番ヲ付スルアリ葬ルニ棺材ヲ撰ビ一棺ニシテ其價數千

金ニ至ルモノアリ最劣等ノモノニシテ尙四五十金ヲ費サ  
ルベカラズ送葬ノ時刻ハ必ズ早晨ニシテ親族知友ハ之  
ヲ白衣ニテ送ル葬主ハ中途人ニ逢フ毎ニ地下ニ伏シテ自  
己ノ罪業ニヨリテ死者ヲ出セリト訴フルモノアリ又號泣  
ヲ能クスル者ヲ雇フテ泣カシムルアリ其棺槨ノ美麗ト泣  
人ノ多キトヲ以テ送禮ノ厚キモノトナシ又費用ヲ多ク支  
出スルヲ以テ孝子トナス紙錢ヲ燒キ親族打寄リテ號泣ス  
父母ノ喪ニハ三年ヲ以テ法トナス然レドモ今日ニテハ二  
十七ヶ月ヲ以テ限リトシ旗人ハ百日ヲ以テ滿限トナス又  
官途ニ在ルモノハ此間ハ仕途ヲ停ム之ヲ丁憂ト云フ而シ  
テ此喪期間ハ白衣綿服ヲ着シ絹布ヲ着クルヲ許サズ頭髮  
ヲ剃ラズ又白帽ヲ用ヒ多人數集合ノ席ニ列セズシテ謹慎

ヲ加フ家ニ依リテハ此喪期間棺槨ノ儘ニテ座敷ニ安置ス  
ルアリ或ハ寺院内ニ安置スルアリ此期間ヲ過ギテ始テ墳  
墓ニ葬ルモノアリ其異域ニアリテ死スルモノ、如キハ縱  
ヒ數千里ノ波濤ヲ隔テタル遠地ト雖必ズ棺槨ヲ郷土ニ回  
送ス

旅館、支那内地ニ至リ棧若クハ客店ノ看版ヲ門前ニ掲ゲ  
タルハ宿屋ナリ上等ノ宿料開港場其他外國人ノ出入スル  
場所ニ設ケタルモノハ大概外國人一泊ノ宿料二百文乃至  
三百文ナリ價ノ點ヨリ論ズルトキハ日本及西洋旅館ト同  
一ニ論ズルヲ得スト雖其不潔ノ點ト食物ノ口ニ合ハザル  
處ヨリ言ヘバ支那風ニ慣レザル初來ノ外國人ニハ迎モ支  
那旅店ニ泊ル事ヲ得ザルベシ第一夏時ハ床虫ト稱シ一種

ノ毒虫寢所ニ埋伏シ客ノ寢ニ就クヲ待テ遁出シ客ノ身體  
中尤モ軟キ所ヲ咬ム其咬マル、當時ハ直ニ感ゼザレドモ  
數時間ヲ經ルノ後痒氣ヲ生シ搔クベ赤色忽チ發シテ膨脹  
シ痛ト痒トノ二ツヲ覺ニ數日間全ク癒ヘザルナリ第二ハ  
夜具古クシテ垢ニ染ミ一種ノ臭氣ヲ帶ビ何トナク胸惡ク  
ナルベシ第三ハ隣室ノ支那人ノ阿片ヲ吸フヨリシテ其阿  
片臭キ烟氣籠リ來リテ鼻孔ヲ衝キ惡シキ氣持ニナルベシ  
第四ハ食物ノ材料ヨリ食器ノ汚穢ナル事ニシテ一見日本  
人ノ眼ニハ人ノ喰餘シモノ、如ク思ハルベシ且ツ之ヲ持  
運ブ給仕ノ手ヲ見ルニ兩手十指ノ垢黒ク爪ハ延バシテ其  
裏面垢積テ山ヲナシ衣服ノ如キ着服以來數月ヲ經テ猶ホ  
洗ハザル者ト見ユ垢ニ染ミテ光澤ヲ發セリ其他不愉快ノ

點少ナカラザルベクレバ迎モ初來ノ外國人ニハ適當ナル  
支那旅店ナカルベシ併シ支那料理ハ不潔ノ一點ヲ除クハ  
調理其法ヲ得鹽梅其宜シキニ適シ且ツ品物ノ出シ方其順  
ヲ得タルヲ以テ之ヲ喰ヒ慣ル、ニ於テハ益其旨味ヲ感ズ  
ルニ至ルヘシ  
茶館、支那人ノ雜沓スル所ニハ必ズ之ナキハナシ此茶館  
ハ單ニ茶ヲ飲ムガ主眼ニアラズシテ種々ノ取引上ノ相談  
ヲナシ且ツ何事ヲ問ハズ相談トシ云へバ必ズ茶館ニ至ル  
ヲ支那人ノ常習トス故ニ茶館内ニテ定メタルコトハ之ヲ  
家内ニ於テ取極メタル事ヨリモ一層正確トシテ之ヲ重シ  
且ツ信賴スベキモノト爲セリ左レバ支那人ト取引ヲナサ  
ント欲スルモノハ茶館へ支那人ヲ誘フテ相談ヲ付ルコト

ヲ學バザルベカラズ茶館ニヨリテハ酒ヲ飲マシムル所ア  
レドモ概シテ茶ヲ專賣トナス上等ノ茶館一人前大抵十錢  
乃至二十錢ヲ投ズレバ空腹モ充チテ歸ルヲ得ベシ  
烟館、鴉片ヲ吃スル所ニシテ日本人ガ錢ヲ有スルハ直  
ニ酒店ニ足ヲ向クルト同ク烟館ニ至リテ阿片ヲ吃スル  
ヲ常トス鴉片ハ一度ヨリ二度ト習慣性ヲ爲スニ至リテハ  
最早之ヲ止ムベカラズ此烟館ハ大邑僻地至ル所トシテ有  
ラザルナシ此等烟館ノ構造ハ其宏壯ナルモノニ至テハ少  
キハ百餘名多キハ千餘ノ客ヲ容ル、コトヲ得ベシ如何ニ  
小ナルモノト雖數十人ヲシテ起臥セシムルノ床榻ヲ備へ  
アリテ老若男女日夜出入雜踏ヲ極ム或ハ河岸ニ一大樓船  
ヲ泛ベテ吃烟ノ客ヲ引クアリ其繁昌尙ホ我國ニ於ル下等

飲食店ノ如シ其吃烟スルニハ豫メ分量ヲ定メテ神氣恍惚トシテ爽快ヲ覺ユルヲ度トシ敢テ昏醉ニ至ラザルヲ期トスト雖漸クニ其吃量ヲ増シ遂ニ一種ノ癮ト稱スル病根ヲ發シテハ又禁ズベカラザルニ至ル此癮病ヤ實ニ吃烟者ノ不幸ニ陷ルノ根源ニシテ一日ノ中時ヲ期シテ眼中ヨリ涙流レ出テ顔色蒼白トナリ力量減シ歩行不自由ヲ感ズルニ至ル若シ此時烟管ヨリ出ツル一縷ノ烟霧シ鼻頭ニ觸ル、コトアラソカ猶飲酒家ガ酒店ノ前ヲ通り越スコト能ハザルガ如ク是非共一吃セザレバ立ツコト能ハズ此ノ如クシテ財産ヲ蕩盡シ精氣ヲ失フニ至ル此ノ害毒タル彼等ト雖之ヲ知ラザルニアラズ雖然因襲ノ久シキ習慣性ヲナシ今日ニ至リテハ一種ノ要具トナリ俄ニ改ムルコト能ハズ憐

ムベキナリ年々英領印度ヨリ支那ニ輸入セル阿片ハ清國輸入品中金巾ト並ビテ二大宗ト稱セラレ、所ニシテ近來内地ニ於テ大ニ其製産ヲ増加セシニモ拘ハラズ其輸入額ハ年々三千四百三十萬兩餘ノ多キニ達セリ或人曰ク支那人民ハ茶ニ得ル所ヲ以テ之ヲ亞片ニ失スト寔ナル哉言ヤ酒樓、支那料理ニ數種アリ南京料理、燕京料理、廣東料理等ヲ上等トシ其他雜種ノ料理法枚舉ニ遑アラズ料理一臺ノ價通常四弗ヨリ七八弗迄ヲ上等トス一臺ノ料理ハ凡八人ヲ以テ喰フヲ常トス但廣東料理ノ小舗ニ至テハ客ノ好ニ因テ數ヲ限リテ食品ヲ出スヲ以テ手輕ナリ其味ニ至リテハ日本料理ノ淡泊ニ過ギテ滋味ニ乏シキニ比スレバ却テ美味ヲ感ズ又料理店ニテ一種特別ノ利益アルハ自分ノ費用



ヲ要セズシテ他客ノ招キタル藝妓ノ鳴物ヲ彈キ歌ヲ唄フ  
ヲ見聞シテ快ヲ見ルノ一事ナリ即チ我日本ノ如ク一間毎  
ニ締切リタルモノニアラスシテ大廣間ニ思ヒ思ヒニ卓子  
ヲ圍ミテ飲食ヲ爲スヲ以テナリ支那ノ藝妓ハ酒席ニ來ル  
モ日本ノ如ク酒ヲ勸ムルニ非ス又客ノ機嫌ヲ取ルニモア  
ラスシテ唯卓子ノ一座ヲ占領シテ琵琶ヲ鳴ラシ歌ヲ唄フ  
ノミ即チ藝ヲ售ルノミ曲畢レバ直ニ家ニ歸ルヲ常トス一  
見實ニ興味ナキガ如クナレドモ之ニ馴レ染ムルトキハ自  
ラ情交濃カニシテ曉鴉ノ聲ヲ聞クモ猶覺メザルニ至ルト  
云フ而シテ藝妓ヲ馴染ニスルニハ自ラ道アリテ第一回ハ  
一兩ヲ投シテ藝者ノ家ニ到リ音曲ヲ聞キ第二回モ亦第一  
回ノ如クシテ茶菓ヲ食ヒ第三回目ニ至リテ初メテ知人ヲ

招キテ盛燕ヲ張リ以テ馴染ノ披露ヲナス之ヲ相好ト云フ  
上海ニ於ル料理店ノ大ナルモノハ天津料理ニ泰和園南京  
料理ニ復新園北京料理ニ聚豐園廣東料理ニ杏華樓アリ何  
レモ結構宏壯ニシテ什器ヨリ料理ノ方法ニ至ル迄能ク整  
備セリ  
劇場、講釋師手品師等多クハ大道又ハ社寺ノ境内ニテ興  
行シ日本ノ如ク寄席ニ於テ興行スルハ稀ナリ定席ニテ興  
行スルモノハ藝妓數名打揃ヒテ琵琶ヲ彈シ歌ヲ唄フモノ  
アリ入場料ハ大抵一人ニ付五錢外國人ナレバ其一倍トス  
座敷料茶代等ハ其中ニ含ムモノトス我芝居小屋ト稱スル  
モノハ之ヲ茶園ト稱シ上海ニ於テ重ナルモノハ天福茶園  
新丹茶園天桂茶園及ヒ天仙茶園三雅園等トス其構造ハ日

本ノ舞臺ニ類スト雖花道ナク又一段毎ニ幕ヲ閉ヅル等ノ  
事ナク土間棧敷モ日本ノ如ク一々堰切リタルモノナク只  
机ヲ以テ其區域ヲ立ツノミ興行ハ晝夜共ニアリ概シテ支  
那ノ演劇ニハ二種アリテ一ヲ京戲ト云ヒ專ラ武事ヲ演シ  
勇マシキ事蹟ヲ奏演スル者ニシテ一ハ昆戯ト稱シ文事ヲ  
演ズ即優美ナル事ヲ演ズルモノナリ故ニ通常ノ人ハ京戲  
ヲ好ミ風流家ハ昆戯ヲ好ム入場料ハ座料茶代共一切五十  
錢内外ニシテ木戸座料等ト稱シテ別ニ求ムルコトナシ支  
那人ハ日本人ノ如ク場内ニ在リテハ酒食ヲ貪ルモノナシ  
演戲ノ模様ハ日本ト稍似タレドモ道具立等ハ至テ少ク又  
下題ニヨリテハ俳優ガ言葉ヲ出サズシテ只チヨボニ連レ  
テ身振ヲノミナスコトアリ幕ノ切目モ判然セズ殆ト我能

狂言ノ如キ感アリ  
締足、支那婦人ハ締足ト稱シ足ノ小ナルヲ貴ビ幼少ヨリ  
緊縮シテ蹠跚殆ト歩スルコト能ハザルモノアリ古人吳王  
ヲ賦スルノ詩ニ曰フ「蓮歩轉輕移」ト唐代ニ至リ時人楊貴妃  
ヲ賦ス「羅襪綾波繡洛神」ト羅襪トハ締足ニ用ユル布帛ヲ云  
フナリ概シテ美人ハ深閨ノ中ニ居リ琴瑟ヲ弄シテ外ニ出  
ヅルコト稀ニ從テ足ノ運ビモ自由ナラズトノ點ヨリシテ  
美人ハ自ラ歩ム能ハザルモノナリトノ習慣ハ施テ今日ニ  
至リタルモノナリ今日ノ俗語ニ「蘇州頭揚州足」ト云ヘルア  
リ蓋シ支那本土中蘇州ノ婦人ハ梳頭ノ美ヲ競ヒ揚州ノ婦  
女ハ締足ノ小ナルヲ争フ故ニ今日ニテハ美人ハ揚州ノ産  
ニ限ラル、有様トナレリ而シテ支那本土中ニ於テ締足ノ

風習ナキモノハ廣東及ヒ滿州ノ婦人ナリ滿州ノ俗締足ヲ  
禁シタレバ漢土ヲ統一シテ清廷ヲ創建スルニ至リテモ尙  
依然トシテ締足ヲ爲サズ又廣東ハ最古ニ歐米人ト開市シ  
タルノ地ニシテ外國ノ事情ニ通ズルモノ多ク且ツ明朝以  
前迄ハ南蠻ト稱シ漢人種中非常ニ嫌惡セラレ殆ト我國ニ  
於ル穢多ノ如キ地位ニ在リ又所謂洋妾ト稱セラル、モノ  
ハ此廣東婦人ニ限レリ此種族ニハ締足ノ習慣ナシ一説ニ  
嫉婢ノ性質ヨリシテ此風習ヲ作成シタルモノナリト稱セ  
ラル  
年暮 年暮ニ至リテ市中商業ヲ歇ムルヲ謝神ト云ヒ官衙  
ノ執ヲ停止スルヲ封印ト云ヒ學校ノ休課ヲ放學ト云ヒ庵  
觀寺院ノ如キ亦謝神ノ禮ヲ行フ蓋シ一年巳ニ盡キ人事皆

其神麻ニヨリテ福利健全ヲ得タルヲ拜謝スルナリ官衙ノ  
封印ハ大抵十二月ノ十九、二十、二十一ノ三日中ニ於テ僚屬  
一同大署ニ來集シ長官ハ印匣ヲ捧シテ之ニ封條ヲ粘シテ  
交叉シ群僚ハ互ニ賀辭ヲ述ベ名簿ヲ収メテ退散ス放學ニ  
ハ學生ハ禮物ヲ學主ニ贈リテ返校ス其禮物ニ水禮析禮ノ  
二様アリ析禮ハ金錢ヲ贈リ水禮ハ物品ヲ贈ル各其家格ニ  
應シテ差アリ賣買上ニ於テハ多ク五月、八月、十二月ノ三節  
ニ仕切勘定ヲナスノ習慣ニシテ殊ニ十二月ヲ緊要トス年  
末ノ贈物ニハ火腿紹酒密饒羊鷄猪等ヲ用ユ又十二月二十  
四日ヲ祭灶ノ期トス俗ニ灶神是日ニ於テ天上シ以テ人間  
ノ善惡ヲ奏シ天帝ハ其奏スル所ニヨリ賞罰ヲ行フモノト  
セリ故ニ此日ハ祭壇ヲ設クテ一般ニ灶神祭ヲナス

年始、家ニ貧富アリ年ニ豊凶アリテ裝飾モ各自不同アリ  
要スルニ皆新潔ヲ務メ或ハ新羅ヲ以テ茅屋ヲ補フアリ或  
ハ金碧朱戸ヲ添ユルアリ門前ニハ必ス紅紙ニ春聯ト稱シ  
テ吉字ノ對句ヲ大書帖布ス官場ノ衣冠儀伏ハ平時ト差別  
ナク其用ユル所ノ衣裳乘輦儀伏從者等ハ朝賀ノ時ト一般  
ニシテ必ズ儀式ニ法ルモノナリ紳商等ハ從僕ニ名刺ヲ持  
タシメ乘輦ニ跟隨セシム商家ハ四日又ハ八日ニ至リテ開  
店シ舊年中ノ殘貨及現銀ヲ勘定シテ潤益ノ有無多少ヲ計  
算シ番頭小僧等ヲ増減シテ以テ本年ノ計畫ヲ立ツ故ニ新  
年休暇中ト雖寸暇ヲ得ザルモノアリ所謂一年ノ計ハ春ニ  
在リト云フモノ此ニ在リ拜年賀ハ一ニ賀節ト稱シ一般ニ  
之ヲ重ズ遠方相隔ツルモノハ東書ヲ以テ賀ヲ述ベ居所遠

カラザルモノハ必ズ躬親ヲ往テ賀スルヲ禮トス又寺院内  
ニハ皇帝陛下萬々歳ト大書セル額ヲ奉祀ス之ヲ龍牌ト名  
ク地方官ハ先ヅ此寺院ニ至リテ龍牌ヲ拜シ以テ朝廷ニ新  
年祝賀ノ意ヲ表スト云フ會館ニ於テハ關帝ヲ祭リ酒饌ヲ  
備ヘ香ヲ燒キ燭ヲ點シテ生意ノ隆昌ヲ祝ス

第二章 教育

學政 小試 鄉試 會試 殿試 武考

支那ハ人文夙ニ開ケ遠ク三千年前已ニ學校ノ設ケアリテ  
子弟教育ノ方法ヲ講ゼシト雖其目的トスル所ハ即チ官ノ  
爲メニ人ヲ選ブニアリ若クハ其才識ヲ以テ自ラ高トスル  
所ノ君子人養成ニアリテ厚生利用ノ術ヲ講ズルモノナカ  
リシナリ歷代ノ政略又皆此主意ニヨリテ人才ヲ養成シタ

リ其科擧ノ法ヲ設ケテ士ヲ取ルニ經義賦詩ヲ以テ其課目  
 トナセシガ故ニ文ヲ講シ學ヲ修ムルモノ皆章句ノ末ニ走  
 テ精通卓識ノ見ヲ養フコト能ハズ殊ニ士ヲ以テ四民ノ上  
 位ニ置キ呼テ君子トナス士ノ榮譽ハ幾多ノ青年ヲ驅テ貴  
 重ノ心力ヲ空文ニ費サシムルニ至レリ  
 學區ハ一省ヲ以テ一區トナシ學政使之ヲ管ス學區内ニ設  
 置スル所ノ學校ニシテ州ニアルモノヲ州學トシ縣ニ在ル  
 モノヲ縣學トシ府ニ在ルモノヲ府學トス府學ニ在ル敎職  
 ヲ敎授ト稱シ州學ニ在ルモノヲ學正ト云ヒ縣學ニ在ルモ  
 ノヲ敎諭ト通稱ス此等敎職ノ外何レモ助教二三名ヲ附ス  
 之ヲ訓導ト云フ共ニ禮部ヨリ選任セラレタルモノナリ  
 學政使ハ區内ノ教育事項ヲ管シ生員ノ賞罰及郷試ニ應ズ

ベキ人員ヲ錄シテ禮部ニ達スルコトヲトナス  
 小試、州縣ニ在ル所ノ就學ノ童生ニシテ數年ノ修練ヲ經  
 レバ州縣官之ガ試験ヲ行フ其科目ハ四書ヲ經及ヒ賦詩ト  
 ス而シテ此州縣試ニ及第シタル童生ヲ府城ニ集テ知府自  
 ラ之ヲ檢定ス課題ハ州縣試ノ稍難ナルモノナリ而シテ此  
 試問ニ及第シタル者ニハ生員トシテ秀才ノ學位ヲ授ケ諸  
 種ノ特權ヲ享有セシメ自己ノ徭役其他ノ諸役ヲ免ゼラル  
 郷試、子卯午酉ノ年ヲ以テ其管内ノ秀才ヲ省ノ首城ニ招  
 集シテ考試ヲ行フ其試験官ハ禮部ヨリ特派ス而シテ此試  
 場ヲ管スルハ總督巡撫ニシテ其試場ノ周圍ニハ兵士ヲ派  
 シテ警戒セシム其課題トスル所ハ經義八股賦詩及ヒ策問  
 トス又其坐作進退ノ如何ニモ注意ス此試業ニ及第シタル

モノヲ舉人ト稱シ其優等者ヲ魁元ト呼ブ此試業及第者ノ  
數全國千五百名ヲ以テ定員トナス  
會試、鄉試ノ翌年ヲ以テ各省ノ舉人ヲ中央政府ノ下ニ集  
メテ禮部監督ノ下ニ於テ考試ヲ行フモノニシテ試驗官ハ  
內閣大學士及ヒ各部尙書トス此試業ニ應ゼンガ爲メ各地  
方ヨリ上京スル舉人ノ總數ハ每試六千人以上ニ至ルト云  
フ此舉人ニハ各所管ノ地方廳ヨリ旅費ヲ給スルノ制ナリ  
而シテ此考科目モ亦タ鄉試ト大同小異ナリ此試問ニ及第  
シタルモノヲ貢士ト稱ス  
殿試、會試ノ同年舉人ヨリ及第シタルモノ即チ會試ヲ經  
テ貢士トナリタルモノヲ集メテ皇帝自ラ保和殿ニ於テ試  
問ヲ行フ之ヲ制策ト云フ即チ題目ヲ與ヘテ之ニ對策セシ

ム其優等ナルモノ三名ヲ一甲進士トシ狀元、榜眼、探花ノ名  
稱ヲ下シ之ニ進士及第ヲ賜フ其他二甲三甲ノ二トナシ何  
レモ進士出身ヲ賜フ此進士ハ翰林院編修トナリ庶吉士ト  
ナリ其他京官地方官ノ候補トナルナリ  
武考、武官ヲ選擇スルノ制ニシテ此武考ニ應ゼントスル  
ニハ先ヅ地方學堂ニアリテ文事ヲ講修シ旁ラ武藝ノ師ニ  
就キテ武事ヲ練習ス刀、弓、騎、射等ノ諸科目ニシテ總テ筋骨  
逞シキ壯丁ヲ選ブ及第者ハ武秀才トナリ武舉人トナリ武  
進士トナリ以テ武職ニ補任セラル、モノナリ  
又近來各國交通ノ結果トシテ諸種技藝ヲ教授スル學堂ノ  
各所ニ設置セラレ泰西ノ科學ヲ研磨スルモノ輩出スルニ  
至レリ則チ上海天津ニ於ル電信學校ノ如キ福建廣東上海

ニ於ル造船學校ノ如キ雲南貴洲ノ礦山學校ノ如キ張之洞氏ノ創設シタル漢口兩湖書院ノ如キ又北京及ヒ天津ノ二地ニ建立セラレタル武備學堂水師學堂水雷學堂ノ如キ何レモ各其專門ノ學藝ヲ教授シ歐米ノ教師ヲ聘用シ又近來ニ至リテハ廣東漢口ノ二所ニ日本語學校ノ官設セラル、アリテ其教師ニ本邦人ノ僱聘セラレタルモノアリ加之日清戰爭ニヨリテ大ニ我日本ノ實力ヲ認識シタルノ結果張之洞氏ノ如キハ專ラ之ヲ主張シテ我國ニ留學生ヲ派遣シ來リ軍人ニ文官ニ其優者ヲ拔擢シテ其人材ヲ舉ゲテ我邦ニ託スルニ至レリ思フニ其我國ニ於ル留學生ノ如キハ清國施政ノ上ニモ將來日清ノ提携ノ上ニモ與リテ大ニ力アルモノナレバ我國タルモノ其心シテ之レガ培養扶植ノ任

ニ務メザルベカラズ

以上ハ從來ニ於ル考試進官ノ順序ナリ今ヤ其科擧法改正八股法廢止ノ上諭下リ專ラ對策ノ法ニヨリテ其人オヲ登用セントス此機ヲ外サズシテ遂ニ根本的智識ヲ培養シ國家教育ノ大主義ヲ唱導シ國民ノ心ヲ一定スルノ道ヲ講ゼバ文物制度燦然トシテ發達シ世界ノ一方ニ屹立シテ優ニ其雄ヲ占メシト昭々タルモノアラソナリ

第三章 宗教

綜説、儒教、佛教、道教、喇嘛教、回々教、基督教、支那ハ古來ヨリ信仰上ニ付キテハ制限ヲ設クス宗教ノ自由ヲ許シタルノミナラズ此ノ宗教ヲ以テ却テ治國ノ方便トナシタリ儒教アリ喇嘛教アリ佛教アリ道教アリ回々教

アリ基督教アリ而シテ現今尤モ盛ニ行ハル、ハ儒教ニシテ此ニ次クモノヲ道教トス佛教モ一時隆盛ヲ極メシモ刻下萎靡振ハズ喇嘛回々ハ一部ノ信仰ニ止マリ基督教ハ最近ノ布教ニ關レルヲ以テ盛大ヲ極ムルニ至ラズ然レドモ其布教ノ熱心ト規模ハ宏大トハ將來此國ヲ風靡スル必ズヤ基督教其者ナラン乎

儒教 又之ヲ聖教ト稱ス孔孟等ノ古聖賢ヨリ以下歷代ノ碩儒ノ學說ヲ宗トス士君子ト稱セラル、モノ文人讀書家ト稱セラル、モノハ皆此教ヲ以テ無上ノ寶典トナス政府又此ヲ以テ國脈ノ根幹トナス然レドモ外面的其信奉者ニ對シテ宗教上葬祭ノ儀式等ナキヲ以テ道教若クハ佛教ノ儀式ヲ用ユルモノナレバ儒教ハ敢テ宗教ト稱スベキモノ

ニアラザルモ又一種ノ教典タルベキモノナリ

佛教 唐代ニアリテハ一時隆盛ヲ極メ名僧智識又輩出シ佛寺ノ宏壯ナルモノヲ見ルニ至リシカ元明以來漸ク衰運ニ傾キ清朝ニ至リテハ尤モ萎靡敗壞ヲ極メ僧徒ハ無學無識ノ者多ク經ヲ講シ人ヲ教化スルノ才カアルモノナシ而シテ今日斯ク佛教ノ振ハザルハ僧徒其人ナキニ因ルモノナルベシト雖又清朝ノ中世ニ至リテ切リニ之ヲ檢束シタルモノ又其一因ナリトス乾隆五年ノ布告ニ「各省ニ於テ新ニ寺院ヲ創建スルヲ許サス又其舊設ノモノト雖其儘敗壞ニ任セ敢テ修繕ヲ加フベカラスト」アリ又乾隆三十五年ノ制ニ「民間ノ男子年十六歳以上ナラザルモノハ出家スルコトヲ許サズ婦女ハ四十歳ヲ超エザルモノハ出家スルコト



ヲ得ズ又僧侶タルモノハ擅ニ人ヲ度シ徒弟トナスコトヲ  
得ズ又僧侶ノ年齢四十歳ヲ超エタルモノニシテ初メテ一  
人ノ徒弟ヲ許スベシ又猥リニ衆ヲ集メテ勸化ズベカラズ  
トノ布令ヲ出セリ是レ即チ佛教撲滅ノ策ニ外ナラザリシ  
ナリ今代ニ至リテハ此等ノ禁ヲ解キ信仰ハ其人ノ自由ニ  
委シタリト雖僧徒其人ナク又教規ハ甚タ紊亂シテ寺院僧  
侶ヲ取締ルノ管長ナク綜轄スルノ本山ナク空ク其壞類ニ  
委ス又憐ムベカラズヤ之豈釋尊ノ本意ナランヤ教派ハ我  
國ニテ禪宗ト稱スルモノニシテ大寺ハ所得ノ莊田ニ衣食  
シ小寺ノ如キハ勸化シテ生活ヲナス目下著名ナル伽藍ハ  
寧波ニ於ル普陀山寺ナリ上海ノ上游四漚ノ地ニ龍化寺ト  
稱スルアリ又南部ノ古刹ナリ

道教 老子ノ道德教五千言ヨリ出ヅ清淨虛無ヲ以テ本法  
トナス各省ニ行ハレ教道又頗ル多ク其僧ヲ道士ト稱ス髮  
ヲ頭上ニ束テ黃衣黃冠ノ道服ヲ着ス而シテ肉食妻帯ノモ  
ノアリ又暈酒ヲ食ハズ妻子ヲ養ハズシテ道德堅固ナルモ  
ノアリ道教ノ主管者ハ代々江西省ノ張天師ナリト云フ此  
教派ノ開祖タル張真人ノ遠裔ナリト傳フ北京ニ在ル有名  
ナル道士廟ヲ白雲觀ト云フ今日尤モ盛ニ行ハル、ハ此教  
派ナリ  
喇嘛 教佛教ヨリ出テタルモノニシテ其別派ナリ西藏ヨ  
リ蒙古滿州等ニ行ハレ其勢力モ又盛ナリ法王アリテ教徒  
ヲ統フ殊ニ西藏ノ如キハ喇嘛僧タルヲ以テ尤モ名譽トス  
ルノ風アリ蒙古青海滿州等ノ人民ハ喇嘛人ヲ以テ己レヨ

リ優等ナルモノトナシ甚々之ヲ尊崇ス蓋シ清朝ノ政略トシテ喇嘛教ヲ以テ蒙古種族殺伐ノ性情ヲ和クルノ具トナセルモノナリ西藏ノ如キハ宏壯ナル寺院多ク又其僧徒ノ多キコト世界第一トス

回々教、即チマホメツト教ニシテ天山以南ヨリ甘肅陝西山西ノ各省ニ盛ニ行ハル一周一回必ズ寺院ニ至リテ誦經ス而シテ此教徒ハ尤モ團結力ニ富ミ極メテ緝睦シ吉凶相共ニシ艱難相助ク婚ヲ他教ノ人ニ通セス深交ヲ他教ノ人ニ加ヘズ殊ニ豕ヲ食フヲ忌ミ旅行必ズ炊具ヲ携ヘ通常人ノ食スルモノヲ食フコトナシ此教徒ハ實ニ清朝ヲ蠶スルモノニシテ革命黨ノ一トシテ現政府ノ大患トスル教派ナリ

基督教、支那人ノ所謂天主教即チ舊教ノ支那ニ入シハ遠ク唐代ニ始マレリト傳フ明代ヨリ稍ヤ布教ノ礎ヲ固メ清朝ニ入り殊ニ近代ニ至リテハ信仰ノ徒頗ル多ク全國ヲ五教區ニ分チ本部ヲ上海漢口ノ二所ニ置キ宣教師ノ深ク内地ニ入りテ傳道ニ從事スルモノ一百餘名ニ上リ多クハ佛國人ニシテ生徒ヲ養ヒ孤兒ヲ育シ醫院ヲ設クテ施療ヲナス等頗ル慈惠ノ意厚キヲ見ル間々會匪ノ擾亂ニ逢ヒ教會堂ヲ燒毀セラレ宣教師ノ暗殺セラル、モノアリト雖此等ハ唯藉テ以テ革命ノ實行ヲ企圖セントスルニアリテ敢テ布教ノ進路ヲ沮害スル程ノ事ニアラズ又新教ノ如キモ布教ニ從事セルヨリ僅ニ五十年ヲ經ズト雖其信徒ハ益々増加シ布教ノ方法等天主教ト同ク種々ノ利益ヲ信徒ノ上ニ

蒙ラシムルヲ以テ其傳播殊ニ速ナリ教會堂ノ數ノ如キ今日已ニ天主教ノ上ニ出テ各省合シテ百五十ヶ所ニ建設セリト云フ其布教ニ從事スルモノハ英米ノ宣教師ニシテ人民中却テ天主教ヨリ妥當ナリトシテ信仰スルモノ多シト云フ

第四章 運輸交通

郵便、電信、汽船、鐵道

支那ノ運輸交通ハ南船北馬ノ一語ヲ以テ之ヲ總括スルヲ得ベシ即チ南部ハ河川縱横シテ名都良邑ヨリ僻郷陬邑ニ至ル迄舟楫ノ通セザル地ナシ揚子江ハ即チ中央部運輸ノ樞軸ヲ握リ四川、貴州、湖南、湖北、安徽、江蘇ノ諸省ヲ貫流シ江口ヨリ宜昌ニ至ルノ間數千里ノ上流ニ汽船ノ航行スル

ヲ得ルノミナラズ此間許多ノ細流小河皆此ニ會注ス其他錢塘江ノ浙江省ニ於ケル閩江ノ福建省ニ於ケル珠江ノ廣東省ニ於ル何レモ皆流域長深ニシテ舟楫ノ利便アリ故ヲ以テ僅ニ里餘ノ外ニ出ル又舟楫ヲ藉ル去レバ陸上道路ノ國道トシテ完全ナルモ見ルベキナシ之ニ反シテ北部各省ニ至リテハ水運ノ不便ナルヲ以テ萬般ノ貨物皆陸上ノ運搬ヲ要スルガ故ニ何レモ大路縱横ニ通シ如何ナル僻地ト雖車道アラザルナシ常ニ牛、驢、馬等七八頭ヲ連ネタル車ノ縱横ニ馳驅スルヲ見ル只支那内地ニ在リテ運輸ノ尤モ不便ナルハ雲南、貴州ノ二地トス此二省ハ重山峻嶺ノ間ニ在リテ道路險惡ナレバ水運車運ノ便ナク僅ニ人肩馬背ニ依頼ス

郵便、清國ノ官制ニ依テ制定セラレタル驛遞ノ法ハ一切官  
用ノ遞傳ニ止リ兵部ノ總轄スル所ニシテ各要地ニ局ヲ置  
キ地方官ヲシテ監督セシム之ヲ驛站ト稱ス民間ノ信務ニ  
關スルコトナシ而シテ民間私設ノ郵便局ヲ信局ト稱シ各  
一定ノ線路アリテ郵便事務ニ從事ス其營業ノ方法一省内  
ニ限ルアリ或ハ數省ニ渉ルアリ各信局何レモ聯絡ヲ通シ  
テ相互ニ遞致ノ線路ヲ擴張セリ資金ノ大小ニ依テ支店分  
局ノ多少アリ此等ノ通信事業ニ從事スルモノ全國約百餘  
家アリ都テ内地人間ノ信問ヲ通シ商業機關ノ運轉敏括ナ  
ル全ク此等信局ノ力ニ據レリ而シテ諸外國ノ如ク印紙ヲ  
貼用スルニアラズ又發送ヲ依頼スルニ先チテ金錢ヲ拂フ  
ニアラズシテ信局ハ其受信者ヨリ賃錢ヲ要求スルノ慣例

ナリ其信用ハ頗ブル厚クシテ決シテ中途遺失等ノ患ナシ  
其書信一封ニ對スル賃錢ハ遠近ニ依テ異同アリ假令ハ四  
川ヨリ漢口ニ送ルニハ百文(我十錢)北京ヨリ漢口迄ハ六十  
文上海ヨリ漢口迄ハ五十文ノ例ナリ又規定ノ賃錢ヨリ二  
倍ヲ支拂フ時ハ發局ヨリ領收證ヲ出シテ擔保スルアリ書  
留郵便ノ例ノ如シ又以上ノ信局ノ外各地ニ飛脚業ヲ營ム  
モノアリテ世人ノ信用厚キモノアリ信局ト同一ノ業ヲ取  
ル  
又上海工部局(居留地議會)ニテ居留外人ノ利便ノ爲メニ各  
開港場間ノ信書往復ノ業ヲ營ミ一般内外人ヲ問ハズ其寄  
托ヲ受ク尤モ利便ヲ或ルハ此局ナリ其信書料ハ信書半  
オンスニ付郵券六錢新聞紙ハ半オンスニ付二錢ノ割合ナ

リ此外ニ稅關郵便アリ稅關内ニ設置シアリテ各開港場間ノ商民ノ郵便ヲ辨ズ郵稅其他工部局ニ同シ  
 電信、軍務ニ外交ニ貿易ニ其效益ノ大ナルモノアルヲ以テ内地電信ノ布設ヲ時ノ直隸總督李鴻章ヨリ上奏シ政府モ其利ノアル所ヲ見民間ノ器々タル風水ノ説ヲ排斥シ遂ニ李鴻章ヲ電信事務總裁ニ任命シ内地各處ノ架設ニ從事セシハ實ニ光緒七年ナリ爾來李氏ハ大北電信會社ト特約ヲ訂結シ十八九年ノ間ニ於テ都鄙遠近ニ連絡セシメ東三省ヨリ雲南貴州ノ邊陲ニ至ル迄聲息轉瞬ナラシム  
 電局創設ノ當時ハ内國債ヲ募集セシモ今日ニ至テハ其利潤ハ應募ノ利子其他一切ノ費用ヲ拂テ餘リアリ此電務ヲ總括スルニ總辦ノ官ヲ置テ天津始局ニ駐紮セシム

又近來電報學堂ヲ設ケ其卒業生ヲ各電信局ニ派出セシム  
 零ボ我郵便電信學校ノ制ニ同シ  
 清字一字ヲ以テ四個ノ數字ノ符號ヲ付ス此ヲ一語トス此符號ハ電報新編ト稱スル書冊アリテ局ヨリ發售ス歐字ハ子母字數十字ヲ以テ一語ト算ス姓名寓所モ亦タ字ヲ算シテ収稅セシムルノ規定ナリ  
 本邦ヨリ清國各要港ニ到ルノ電報料及ヒ清國上海ヨリ各開港地ニ至ルノ電報料ハ次ノ如シ但シ歐字一語ハ清字一語料ノ倍額トス

全	自日本到清國北京	歐字一語料	一圓〇八錢
全	上海	全	六十八錢
全	天津	全	九十八錢



ク日本長崎、神戸、横濱等ニモ亦其代理店アリ其他安南、呂宋、新嘉坡等ニモ支局アリテ頗ル盛大ニ船客貨物ノ運漕ニ從事ス同局ノ倉庫棧橋ハ上海佛租界ノ河岸ニアリテ十數ノ倉庫棟ヲ列シ其廣大ナル實ニ人目ヲ驚カシムル程ナリ此倉庫内ニハ常ニ一千万兩ノ貨物アリト云フ總管理人三名アリ現在同局所屬ノ漁船ニシテ支那沿海及ヒ長江筋ニ來往スルモノ大約左ノ如シ

(船名)	(總噸數)	(登簿噸數)	(公稱馬力)
廣利	二、三六〇	一、五〇八	二五〇
江裕	三、〇九八	二、二七〇	三〇〇
富順	二、三六二	一、五〇四	二五〇
江孚	二、三三〇	一、四六八	三〇〇

江永	二、一一八	一、五一一	二五〇
江天	二、〇一二	一、三六八	二五〇
圖南	一、九五一	一、二六二	一八〇
致遠	一、八七九	一、二一一	三〇〇
美福	一、七九三	一、三三九	一五〇
新基	一、七〇八	一、〇六三	—
新宏	一、七〇八	一、〇六三	—
江寬	一、六四七	一、〇三〇	二五〇
海定	一、五一三	一、〇九九	一五〇
海晏	一、三七八	八六九	一五〇
新裕	一、三七七	八七五	二〇〇
豐順	一、三六八	八六三	一八七

實 際 清 國 一 班

鎮東	一、三三〇	八三五	一八〇
永清	一、一九六	七六一	一二五
海琛	一、一四五	七六三	一五〇
拱北	一、〇三〇	六九二	九五
ヨウシン	一、〇一六	七五五	一〇〇
普濟	八八三	五四四	一二〇
江通	五六六	三四〇	二〇〇
江平	五三九	三九二	八〇
海昌	—	三二四	五七
廣濟	五〇五	三一三	六二
計	(三八、七九二)	(二六、〇二二)	(四、三三六)

太古洋行、佛國人ノ經營スル所ニシテ其本店ハ上海佛租界

界ニ在リ支那沿海航行及ビ長江筋ヲ上下スル汽船ヲ舉グ  
レバ左ノ如シ

- |     |     |     |       |
|-----|-----|-----|-------|
| 武昌號 | 重慶號 | 通州號 | (天津往) |
| 安慶號 | 江通號 | 北京號 | (長江往) |
| 宜昌號 |     |     | (寧波往) |
| 南昌號 | 黃浦號 |     | (汕頭往) |

大略右ノ如キ規定ナレドモ時ニヨリテ多少ノ變動アルベ  
シ此外小汽船尙ホ數隻アリ  
怡和洋行、英人ノ所管ニ係リ本店ハ上海英租界ニ在リ各  
海港場ニ支店ヲ有ス同社所屬船ニシテ支那沿海及ビ長江  
筋ヲ航行スル重ナル者ヲ舉クレハ左ノ如シ

- |     |     |       |
|-----|-----|-------|
| 連陞號 | 順和號 | (天津往) |
|-----|-----|-------|



元和號 福和號 公和號 泰和號 (長江往)

福山號 大生號 (香港往)

右三大瀛船會社ノ外尙ホ數種ノ小瀛船會社アリ和興會社、禪臣會社、麥邊會社、和衆會社ノ類是レナリ此等ノ小瀛船會社モ亦タ支那沿海及ヒ長江筋ノ運輸事業ニ從事シ三大瀛船會社ノ遺利ヲ收ムルモノ、如シ

鐵道、鐵道ニ關シテハ第一編第九章工業ノ部ニ於テ多少說明セシ所ナリ目下鐵道事業ニ就テハ清國ハ極メテ幼稚ニシテ殊ニ此ニ揭クル程ノ者ニアラザルナリ之レ其保守論者ノ風水ノ說ニ迷フテ沮害スル所トナリタルガ爲ナリ、現ニ開通セルモノハ天津ヨリ山海關間ノ鐵道ニシテ當初開平炭運送用ノ爲メニ開平炭坑ヨリ薊河迄九十清里ノ間

ニ敷設セラレタルモノナリシガ此線路ヲ延長シテ現今ノ距離ニ至リシナリ若シ夫レ關東鐵道成リ更ニ北京ヨリ漢口ニ通ズルノ中央線路達シ又其計畫ノ久シキ内外人ノ注目厚キ所ノ漢口ヨリ廣東ニ至ルノ南部橫斷線通スルノ日ニ至ランカ之レ實ニ清朝ノ面目一新スルノ期ニシテ安危興亡ノ一大管鍵ナルベシ

第五章 金融

銀行、爲替、質鋪、貨幣

銀行ニハ票號、銀號、錢鋪ノ三種アリ内地各所至ル所設置セラレザルナシ何レモ其信用厚ク資金ノ流通頗ル敏活ナリ票號、票號ハ爲替、荷爲替、貸金、貯金等ノ業務ヲ取扱ヒ銀票即チ手形ヲ發行ス山西省ノ豪商ノ開店セルモノ多シ資金

ハ一千兩乃至百兩ニシテ總テ無限ノ責任ナリ  
 銀號、票號ヨリ規模稍小ニシテ廣ク分支店ヲ有セズ所管  
 應ノ許可ヲ得テ營業スルモノニシテ其數多シ業務ハ都テ  
 票號ト同一ニシテ只小ナルノミ  
 錢舖、銀號ニ比シテ更ニ其規模小ナルモ其數ハ更ニ多ク  
 銀行ト兩替トヲ兼ネテ營業シ又最寄ノ票號、銀號ト取引  
 ノ約束ヲ結ビ其資本ヲ借リテ營業ノ融通ヲナスヲ以テ其  
 小資本ノ割合ニハ大ナル金額ヲ運轉スルコトヲ得ルナ  
 リ  
 爲替、爲替ハ票號ノ營業ニ屬ス假令ハ爲替券ヲ以テ金一  
 千圓ヲ某地ニ送ラントスルニハ僅ニ五十錢内外ノ爲替料  
 ヲ支拂フベシ又現金ヲ以テ其儘送致センニハ每一兩ニ付

十錢ノ送金手数料ヲ拂ハザルベカラズ又小量ノ物品ハ一  
 斤三十錢ノ割合ヲ以テ托シ得ルナリ尤モ地ノ遠近ニ因テ  
 多少ノ差異アルナリ  
 又荷爲替ノ營業モ票號ニテ扱フ其手数料ハ遠近ニ因テ差  
 違アレドモ概チ一千兩ニ對シテ三兩乃至十兩位ニシテ之  
 ヲ前拂トス若シ其荷物ノ先方ニ到着シ約定ノ期日ニ至ル  
 モ貨主ヨリ元金ヲ納メザルトキハ其期外ノ日數ハ日賦ヲ  
 以テ之ヲ收メシムルノ制ナリ  
 官定ノ金利ハ年三分ヲ超ユベカラズト雖實際之ニ超過ス  
 ルモノ少カラズ又當座預金三日間ハ利子ヲ付セズ四日ヨ  
 リ每一月ニ六七厘ヨリ一分五厘迄ノ利子ヲ付ス又各銀行  
 ヨリ發行スル所ノ手形ハ極メテ粗末ナルモノナレドモ其

信用上一般ニ流通セリ

當舖、支那ノ質屋ハ之ヲ當舖ト稱ス十萬兩以上ノ資本ヲ有スルモノアリ又甚ダ僅少ノ資本ヲ繰廻ハシテ營業スルモノ少カラズ大店ニ至リテハ番頭手代等三十餘名ヲ使役ス小店ニ至リテモ十名以上ノ人ヲ使役ス其營業ノ例規ニ至リテハ地方ニヨリテ其趣ヲ異ニシ各店其定ムル所ノ章程アルヲ以テ到底之ヲ悉スコト能ハズト雖各地各店其大同ナルモノヲ舉グレハ大略次ノ如シ

典物ノ期限ハ官ニ於テ二年即チ二十四ヶ月ト定ム然レドモ實際ニ於テハ更ニ半年位ノ猶豫ヲ與フルモノトス其元利金ヲ併セテ原品ノ普通代價ヲ超過セズト認ムルトキニハ尙一二ヶ月ノ留在ヲ肯ズ典物ノ預リ證即チ當票ニハ「遵

例二年爲滿過期變賣作本虫傷鼠咬各聽天命云々ノ語ヲ記スルコト我國ニ於ルガ如シ火災ノ事ヲ記セザルハ豫メ火災アリトスルノ嫌ヲ避クルモノナリト云フ利息ハ月利ニシテ贖出期日ノ長短ニ拘ハラズ總テ品物ノ種類ト貨ストコロノ金額ニ依テ之ヲ定ム而シテ高キモ三分ヲ超ヘズ低キモ二分ヲ下ラズ即チ衣服ハ貸ス所ノ金額八錢ヨリ四十五錢マデハ月利三分五十錢以上ハ同ク二分トス毛皮等ノ衣類ハ保存ニ注意ヲ要スルヲ以テ五圓以上ノ品ニモ三分ノ利ヲ課ス此他玉器銅鐵器骨董書畫磁器硝子等ノ類及ヒ取扱ヒニ面倒ナル品物ト犁鋤等ノ如キ粗末ナル器具及ビ夜具布團ノ如キ嵩高ナル品物ハ貸ス所ノ金額ノ多少ニ係ハラズ總テ三分ノ月利トス以上ハ普通ノ慣例ナリト雖

金融ノ便否ト地方ノ習慣トニヨリ、テ更ニ品類ヲ細別シテ  
 利息ヲ定ムルアリ、或ハ品物ノ種類ヲ問ハズ概シテ一定ノ  
 利息ヲ收ムルアリ又單ニ貸與スル所ノ金額ニ依テ利息ノ  
 差異ヲ立ツル等アリテ一様ナラズ  
 貨幣、清國ノ通貨ハ銀兩ヲ以テ本位トシ銅錢ヲ以テ其補  
 助トナス各開港場間ハ洋銀ヲ使用ス紙幣トシテハ票號、銀  
 號等ヨリ發行スル手形ヲ流通ス  
 清國ニハ鑄造貨幣一圓、五十錢、二十錢、十錢等ノ銀貨アレド  
 モ廣ク行ハレズ僅ニ開港場ノミニ止リ内地ニ至リテハ銀  
 塊ヲ使用シ旁ラ銅錢ヲ用ユ其銀塊ニハ元寶銀（一ニ馬蹄銀  
 ト云フ）錠銀等其種類極メテ多ク皆其重量ヲ以テ計算ス  
 銀兩授受ノ際ニ於テ尤モ注意スベキハ銀塊ノ檢定ナリ元

寶銀錠銀等總テ民間私設ノ爐ニ於テ自由ニ鑄造スルモノ  
 ナルヲ以テ混合物ヲ多量ニシテ銀質ヲ粗惡トナスノ弊  
 アリ故ニ其鑑定ハ尤モ熟練ノ人ニアラザレバ困難ナリト  
 ス  
 銅錢ハ我寬永通寶ト同形ニシテ其鑄造ノ年代ニヨリテ大  
 小厚薄一様ナラズ中ニハ品質極メテ粗惡ノモノアリ近代  
 ノ鑄造ニ成レル光緒通寶、同治通寶ノ如キハ尤モ惡質ナリ  
 トス一個ヲ一文ト稱シ千個ヲ一串ト云フ  
 銀兩、洋銀及ビ銅錢ノ三貨幣相場ノ比較ハ時ニヨリテ多少  
 ノ昇降アリテ一定セズト雖大要ハ左ノ如シ  
 「元寶銀一兩ニ對スル洋銀ノ相場一元三十五仙ヨリ一元  
 五十五仙位迄トス」